

沼津の商店街―戦後昭和史 ―焼け野原から逞しく立ち上がった沼津の商人たち―

沼津上本通り商店街 理事 長谷川徹

- 記録をまとめた理由は？
- 昭和32年(1957)に地方第1号の支店として沼津店が進出してから半世紀にわたり沼津市民や周辺地域の住民に親しまれてきた西武百貨店。
- 平成25年(2013)1月31日の西武沼津店の撤退、その日の夜の閉店セレモニーを記録しようとして出かけたとき、その現場で多くの人たちが送別の悲しみを感じている様子を目の当たりにしたことが主な理由です。

簡略沼津商業界 昭和戦後史

昭和20年8月 中島飛行機株式会社三島製作所木瀬川分工場、富士産業株式会社と改称昭和20年10月 沼津駅引揚・復員者案内所開設

昭和20年11月 米軍60名千本中央青年学校に進駐

昭和20年12月 本田町海軍共済病院、沼津市立病院となる

昭和21年 復興が始まる上本通り



復興する沼津のまち(沼津市役所広報広聴課提供)



戦後間もない頃の上本通り(沼津市役所広報広聴課提供)

昭和21年 映画館建設ラッシュ《平和館:収容人員306人(城内元龍信亭跡)・沼津松竹:収容人員408人(本町元杉本旅館跡)・沼津映画劇場:収容人員506人(大手町元城内呉服店跡):復興》(本通り東宝劇場:収容人員570人・本町演劇館;収容人員270人・本通り沼津第一東宝館:収容人員509人:新築)(静岡新聞昭和20年12月21日号)



昭和21年1月15日 御殿場線大岡駅開設



↑ 画像は昭和30年代



↑ 画像は昭和40年代

昭和21年2月 下香貫旧海軍技研の建物を市立第二病院とする

昭和21年3月 煙草ピース・コロナ発売(県内静岡・浜松・沼津・熱海四都市のみ販売)

昭和21年5月1日 沼津駅前で戦後初めてのメーデー3500名参加

昭和21年6月17日 昭和天皇沼津行幸、片倉工業等視察

昭和21年8月 富士製作所賠償指定管理工場となる(昭和27年4月まで)

昭和21年 不二家食品沼津工場 水飴製造で復興（昭和11年4月沼津工場設立:缶詰製造、乳製品の食品工場）
（ミルキーは沼津工場で生産された水飴と練乳で開発製造昭和26年銀座不二家で発売）



不二家食品株式会社

昭和21年 東京麻糸紡績株式会社沼津工場スフと麻の混紡製造で復興



昭和21年2月6日 沼津駅前通りの青空市場（沼津市役所広報広聴課提供）

昭和21年 大川螺子製作所民需に転換製造再開（片浜村出身の大川栄作氏が大正13年東京で創業、昭和13年沼津工場新設本社所在地とした）

昭和21年10月5日 東部商工会議所創立:岡野豪夫会頭(昭和30年現在の沼津商工会議所へ認可)

昭和21年11月1日～3日 沼津復興祭(狩野川花火大会復活)

昭和21年11月3日 新憲法発布祝賀・沼津港開港祝賀・沼津港線開通（狩野川河口内港）



昭和22年 旧百貨店法廃止

昭和22年 戦後第1回歳末売り出し（主催商工会議所・後援市役所）

昭和22年10月 全国木工機械展覧会：富士製作所会場



沼津駅前の標識塔



昭和22年(1947)9月8日アメリカ軍が撮影した沼津上空写真
(建設省国土地理院提供)

昭和23年4月 1 日 大洋無尽株式会社沼津市上土町東側に進出（昭和26年10月 20 日株式会社太陽相互銀行と改称、その後合併をして静岡相互銀行さらに静岡中央銀行となる）

昭和23年6月 観光協会再発足（昭和27年観光協会社団法人で新発足）

昭和23年6月 高島町・本田町より市議会へ沼津駅北口設置請願

昭和23年 戦後第1回中元売り出し（主催商工会議所）

昭和23年8月 沼津市警察署発足（内務省警察から自治体警察へ移管）



↑ 画像は昭和 3 年新築式典沼津警察署



↑ 画像は昭和40年4月 取り壊された警察署庁署

昭和23年8月1日 沼津夏祭り開幕



昭和23年10月 大阪麻糸株式会社が工場を沼津市東熊堂に建設

昭和23年11月 上滝圧力機株式会社再建

昭和23年12月 株式会社産業科学研究所設立(元沼津海軍技術研究員集団:千本郷林)

昭和23年12月 第3代会頭石橋治郎八就任(前任者第2代会頭岡野豪夫から)

昭和24年2月 沼津商工会議所第1回役員会(議題沼津駅北口設置・仮称片浜駅新設請願)

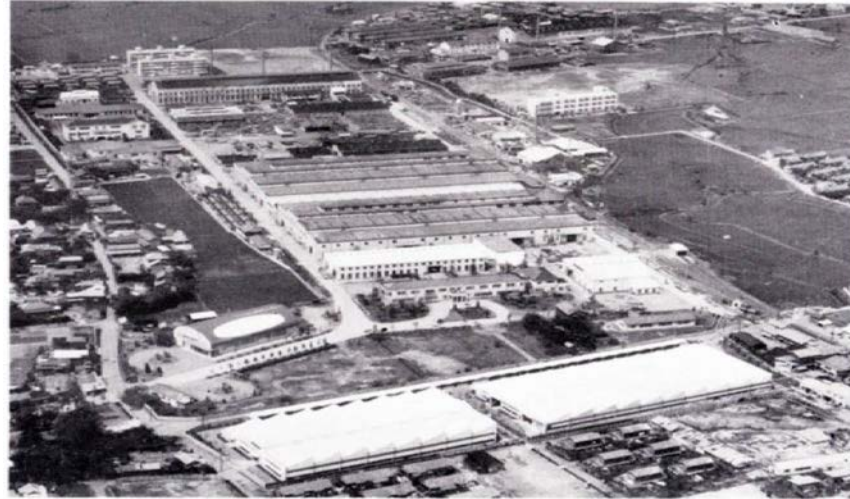


商 工 会 議 所



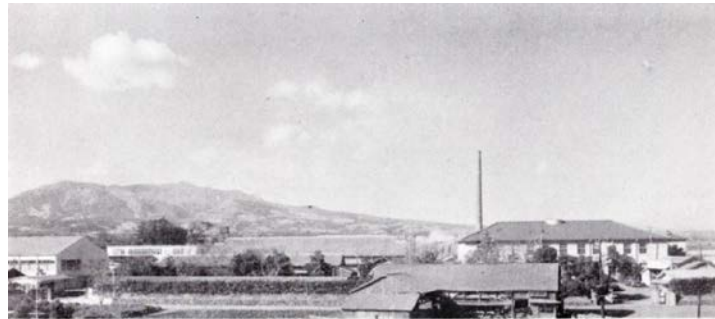
商工会議所

昭和24年3月 芝浦機械製作所再発足（企業再建整備法施行発令）



株式会社芝浦機械製作所

昭和24年3月 国産電機再発足（企業再建整備法発令）（昭和21年2月 20 日軍政部より民需品転換許可がでる



国産電機株式会社

昭和24年3月 昌和洋行（昌和製作所）沼津工場再稼働（企業再建整備法・昭和35年山葉発動機傘下）



昭和24年3月 旧海軍工廠跡地をめぐり金岡開拓組合と岳南組合との乱闘事件



軍用地返還と民需転換

戦争中に軍関係施設や軍需工場などにされていた土地は、戦争が終わると新たな利用目的のために返還されました。たとえば海軍技術研究所音響研究部の土地・建物は第三小・中学校、沼津海軍工廠のそれは金岡小・中学校、市立高校などに利用されました。金岡地区では海軍工廠の跡地返還をめぐって元の所有者である農民と沼津市との間で紛争をきたし、分離運動にまで発展しました。拓南錬成所の跡には外地から引き揚げてきた卒業生の一部が住み着き、開拓に従事することになりました。

一方、昌和製作所が航空機部品からオートバイ製造に、国産電機が航空機部品から農漁業用エンジン等の製造に変わるなど、軍需工場は平和産業に転換していきました。

昭和24年3月24日 沼津市大門町大火122戸消失

昭和24年6月 1 日 沼津―静岡間電化（昭和24年6月 日本国有鉄道設立）

昭和24年7月 中小企業等協同組合法公布

昭和24年7月 1 日 三島信用金庫沼津支店開店:大手町（昭和26年7月幸町支店開設:昭和35年5月4日カトリック教会跡地に移転新築・平成19年12月10日建替新築）

昭和24年12月 沼津・三島間直通電話開通（市外交換不要になる）

昭和25年3月1日 東京―沼津間に湘南電車運転開始（東京・沼津間2時間30分の快速電車）

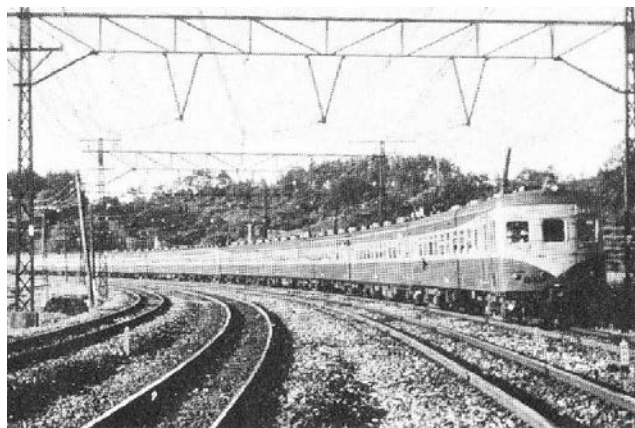
『 大門の火事は二十四日午後三時頃に五十メートルばかり北にある大通りを渡ったかぶとや玩具店のセルロイドに何かの火が移り、無風状態だったのに出火と共に火勢は強くなり火勢は西へと拡大した。安田屋の計ちゃんと二人で火元の隣の下駄屋の荷物を、往来へ運び出していたのだが。火勢と共に吹き出した強い風に煽られて、いつしか火は大通りを南に渡って今は裏の方から、凄まじい火勢で紅蓮の炎は戦災バラックを瞬時に舐め尽して我が家に迫って来る。

あの広い道路の向い側に出した家具も輻射熱で今にも燃え出しそうだった。火もないのに突然軒先から発火した。乾燥し切った上に、あの高温に達すると火の気は無くとも燃え上った。バケツの水をこの家具にかけると一瞬にして水蒸気となり、激しい音だけが残ったあの日のことが今も眼底に残る。

水の便が悪くて消防車からの放水は殆んど無かった。僅かに清水村の消防団が狩野川から中継で送水していたから、この消防士に頼んで地下室のあたりに放水して貰った。若い三人が道路上の荷物の夜番をしてくれたので、くたくたに疲れた体を八幡町で仮眠した。

一夜明けた火事場では焼け残った畳や建具の争奪戦が展開されていた。戦災バラックのとんとん葺の屋根ばかりだったから意外に火の廻りが早かったし、又思い掛けない飛び火の原因になった。吾が二階家も流石の火勢に骨組みだけ残す姿になるのに三十分とはかからなかった。眼の前で総べてが灰燼に帰し、羽目板は宛も紙切れ同然にバリバリ音を立て、四散した。戦災バラックは火災をより大きくするばかりだった。隣の岡田さんが火事の最中に男泣きしている姿には哀れを催した。尤も百数十軒の罹災者の中で、火炭保険加入の最高が古安肉店の百万円であり、三番目に多い自分が七十万円だった。材木もまだ統制品であったが、火事見舞に来てくれた下河原の鈴木製材にこの時既に出荷の承諾を得て居た。

【類焼と発病（一杉和一著「古希」自叙伝より）】



東京・沼津間に湘南電車登場(昭和25年)

昭和25年4月「弘報ぬまづ」創刊第一号発行



昭和25年4月 3日 沼津信用組合設立 (昭和26年沼津信用金庫に改組) 組合長名取栄一・出資者1109人・出資金4,464,600円



↑ 沼津商工会議所1階で開業



↑ 晩年の名取栄一氏

『昭和20年の八月十五日に戦争は終わったものの、市街地は焼野原と化してしまった。市民は家を焼かれ財を失なって、茫然自失した。農・漁民や俸給生活者はとにかく、一番困まったのは、中小企業、商店街の人たちであった。

復興に先立つものは金であった。バラックの借店舗は何とか建てたが、商品を仕入れる資金を簡単に貸してくれるところなかった。

名取翁は、沼津市の戦災復興のためには、何よりもさきにこの中小企業者たちを再起させる金融機関をつくらなければならないと考えた。

岡田吾市、勝亦干城、竹内鉄次郎、寺尾利平、木村清太郎、諏訪健次郎、塩谷六太郎、植松与三郎、杉山金次郎、宇野秀吉氏等と相談して、中小企業等協同組合法による沼津信用組合の創設にとりかかった。

名取翁が発起人代表となり、当時の商工会議所議員が発起人となって、昭和二十五年四月三日に沼津商工会議所ホールで創立総会をひらいた。組合長に名取栄一が満場一致で推され、専務理事に寺尾利平、常務理事に木村清太郎、理事に岡田吾市、竹内鉄次郎、杉山金次郎、増田慶三、諏訪健次郎、西山倉吉、渡辺好郎、石橋治郎八、塩谷六太郎、勝亦干城、植松与三郎、小池直次郎、鈴木万吉、宇野秀吉、杉山猪作、山田長次郎、山本清、金子一六、渡辺唯吉、矢田唯雄、後藤寿雄、監事に佐藤英一、大古田金太郎、柴田正、植松興作、小川藤太郎の諸氏が選出された。そして同年四月二十日から、商工会議所階下の一部を利用して業務を開始した。出資者は千百九人、出資額は四百四十六万四千六百円であった。：名取栄一翁小伝より』

昭和25年4月 千本公園に市営水族館開館

昭和25年5月 駿河無尽株式会社本店三枚橋から大手町へ移転(昭和27年6月 30 日 静神相互銀行に改称、昭和32年9月 21 日 静岡相互銀行と合併、その後静岡中央銀行と改称)

昭和25年6月22日 沼津商工会議所:「全市連合中元大売出し実施要綱」(七夕祭り:七夕飾り・七夕行列)

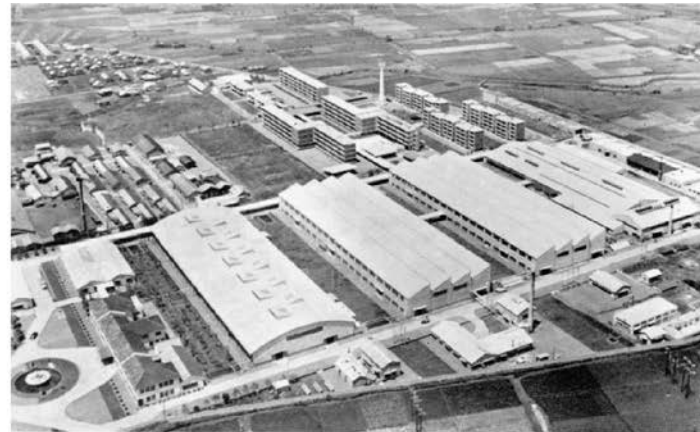
昭和25年6月25日 朝鮮動乱勃発

昭和25年7月 泉水源の沼津市営水道、給水開始

昭和25年7月 内浦湾周遊龍宮丸運行

昭和25年10月 国有財産千本公園の市へ払い下げ決定(28000坪・90万円)

昭和26年6月 矢崎電線(株)(昭和4年5月 藤倉電線社員矢崎卓美が東京芝に電線販売会社設立)沼津兵器跡に沼津製作所進出



沼津製作所全景

↑ 昭和33年沼津工場完工

昭和26年6月 富士ロビン(株)沼津製作所進出(昭和18年中島飛行機三島製作所木瀬川分工場跡)

昭和26年8月 清水銀行大手町に沼津支店開設



← (昭和35年鉄筋コンクリートで新築する)

昭和26年9月 8 日 サンフランシスコ平和条約・日米安全保障条約調印

昭和26年12月 沼津専門店会設立(月賦販売システム)(沼津リンクストアから27年専門店会へ名称変更)

『石橋治郎八著シルク紳士まかり通るより:次に力を入れたのは専門店会の育成である。そのころチケットで月賦販売する専門店会が関西からはやってきた。沼津でも有志が集まって専門店会を結成する計画が進められた。ところがその資金はわずかに三十万円だという。私は顧問の資格でその総会に出席して一席ぶった。「三十万円の資金ではせっかく専門店会をつくっても動きがとれないのではないか。せめて百万円にしろ。そのかわり、私が責任をもって静岡銀行から一千万円の信用融資を取りつけてあげます」

もちろん会員たちは一も二もなく賛成した。出資金を百万円に増額する件はただちに可決されたのである。

こうして専門店会ができると、そのPRのため大口消費者である沼津を中心とした有力工場の総務関係者を招いてパーティを開いた。私はその席上、商工会議所会頭として次のような挨拶を述べた。

「専門店会がチケットで月賦販売をやるといって、あなた方はおそらく市価より高く売りつけるのではないかとお考えになるかもしれない。また、それが従来の月賦販売の常識でもあります。しかし私が顧問として専門店会に関係する以上、現金正価と変わらない値段で販売するということをここで約束いたします。どうしてそういうことができるかと不思議に思う方もいるかもしれませんが、当会では静岡銀行から一千万円の融資を受けることになっており、商品はみな現金で仕入れるので安く入手できるのです。だからあなた方にも安い商品を提供できるわけがあります。どうか、その点は安心して当会とお取引き願いたい」

正価で月賦この方針は図に当たった。その後沼津専門店会は年々発展し、静岡県下でも優秀な成績をあげるようになり、全国の専門店会のなかから表彰されるまでになった。同会が現在なお発展途上にあることは、まことによろこばしいことである。

大きな企業は放っておいても自分でやっていけるが、小さな企業はそうはいかない。私は会頭としての仕事の重点を中小企業の育成において努力したつもりである。』



『沼津専門店会とはどんな組織なのだろうか。』

その発足は31年前の昭和26年に遡る。当時、全国的に日専連運動が展開されており、静岡に専門店会ができたことにより、沼津にも創ってはどうかと、市内の有力専門店の有志が集まり、設立準備を初めたという。当時は「沼津リンクストア」という名称で、発起人には、柴田屋柴田正、正札堂田村靖雄、タチカワ洋装店立川松吉、仁藤履物店仁藤英一、光音カンパニー牧野洋三、大橋果物店大橋規一、ヌマヅ薬局岡田仁、高村洋服店高村銀作、ヨシムラ眼鏡店吉邨勇、トモエヤ靴店佐野薫、伊豆屋呉服店土屋秀夫の諸氏が並んだ。加盟店は一業種一店が原則であったが、一業種三店程度にワクを広げ、参加を募ったという。(昭和56年7月ペルソン誌)』

昭和26年 丸高パチンコ店転業開店(昭和5年大手町で丸高家具店開業)(このころ沼津市内に102軒のパチンコ店あり)

昭和27年2月 沼津商店街連盟設立

昭和27年2月29日 沼津ロータリークラブ発足(チャーターメンバー28名)

昭和27年3月 沼津観光協会社団法人で新発足

『石橋治郎八著シルク紳士まかり通るより：私は沼津観光協会長を兼任していた。昭和二十七年のこと、夏の人寄せに夏祭りを計画し、手はじめに西条八十、中山晋平両先生に作詞作曲を依頼して「沼津音頭」と「沼津夜曲」をつくってもらい、レコードにも吹き込んで、振り付けも頼み、これを町内を通じて普及すると同時に、夏祭りの気分を高めるように努めた。

夏祭りは八月一日から三日間とし、観光協会の主催で狩野川河口の御成橋を中心に仕掛け花火なども用意して、盛大な花火大会を開いた。私はこの夏祭りの宣伝のため、沼津の芸者を狩り集め、満艦飾のトラックに乗せて沼津音頭のお披露目をし、近村から修善寺、伊豆半島と静岡県東部一帯を巡らせた。この三日間に集まった人波はざっと二十万、商店街に落ちた金は一億円にもなった。

祭りは造るものである。人は集めるものである。思いがけぬ盛大な夏祭りになって商店街もホクホクだった。私も生まれてはじめてのような大音声で、狩野川河口で群衆にあいさつした、おそらく「街道」の「いい男」になっていただろう、翌年の夏はちょうど沼津御用邸にお出でになっていた皇太子殿下をお祭りにご招待し、ご観覧の光栄に浴した。

この夏祭りは、いまでは東海道の名物となり、毎夏盛大に行なわれているのである。』

昭和27年4月 富士製作所、製品海外輸出再開される



『戦後の輸出再開の梱包品と記念撮影』
(昭和24年)

昭和27年5月 「耐火建築促進法」公布施行

昭和27年5月 沼津市立図書館、千本に開館

昭和27年 沼津サービス店会設立（月賦販売システム）



昭和27年 本通り共同住宅建設組合設立

昭和27年 沼津市商店街連盟設立

昭和27年(1952年)9月20日 西武百貨店第一期開店(池袋)。

昭和28年 沼津チェンストアー設立(月賦販売システム)

昭和28年1月 石橋製糸沼津工場(昭和8年林組倒産により引き継た)は二十八年一月、個人商店から株式会社として認められた。



石橋沼津製糸工場、工場正門、事務所

昭和28年2月 1 日 NHK東京テレビ放送開始

昭和28年3月 沼津新駅庁舎竣工



昭和28年3月 沼津駅デパート開業



『石橋治郎八著シルク紳士まかり 通る より。【私が任期中に力を入れたのは沼津駅の改築であ

る。戦災を受けた沼津駅は終戦後もずっとバラック建てのままであった。当時、駅の改築は地元の寄付が相当ないと許可にならない建て前だった。

あるとき、塩谷沼津市長が御殿場で静養中の吉田首相から耳よりな話を聞いてきた。「これからの駅のあり方は構造を立体的にし、会社の事務所やいろいろな商店を置くようにしなければならぬ」という、いわゆる民衆駅の構想である。これに力を得て、私たちは工費一億円で鉄筋四階建ての駅を建築する計画を立てた。しかし国鉄側と話し合ってみると、民間が使用する分の建築費については民間の全額寄付とする、さらにそれを借りるときはこちらが権利金を出したうえ毎月賃貸料を払う、そして契約期間は八十年から百年という条件でなければ応じないという。

すこぶるむずかしい条件だ。これでは寄付金を集めるわけにはいかない。残念ながら沼津駅改築計画は一時見送りとなった。
それで私は沼津駅の改築のことは半ば諦めていたのだが、そのことがあってから六、七年たった頃、こんどは国鉄側から話が持ち込まれてきた。

一沼津駅改築の予算が四千万円ほどとれたが、地元から千五百万円の寄付が必要である。

その金が見込がつかなければ、改築はできないから予算も他にまわすことになるだろう、ということであった。

千五百万円の寄付を集めることは容易ではない。しかしこの機を逸すると、沼津駅の改築は当分お預けとなる。あれやこれやと思いあぐねた末、私は国鉄側に沼津駅改築の図面をみせてもらうことにした。図面をみれば、なにかいい考えが湧くかもしれないと考えたのである。

詳細に図面を検討したところ、改札口の上が百二、三十坪空いているのを発見した。これだ！これを活用する以外に手はない。私は早速この「空所を七、八十年の賃貸契約で貸してくれるなら千五百万円の寄付は引き受けます」と国鉄に申し入れた。

しかし国鉄側では七、八十年の賃貸契約ではむずかしい、こちらの条件をのむなら応じようとの返事で譲らない。結局国鉄側の言いなりになるよりほかなかった。すでに駅弁を入れている桃中軒が二、三十坪を二百五十万円で引き受けることになっていたので、会議所としてはあとの百坪を借りる条件で千二百五十万円の寄付を引き受けることになった。

これはいいささか独断専行のきらいがあった。しかし、ある場合は、この程度の蛮勇をふるわなければ何事も成就しがたいものである。
私は国鉄との契約は伏せたまま、しばらく形勢をみることにした。そのうちにいよいよ国鉄側は改築に取りかかり、新しい駅に対する一般の関心が高まってきた。ころはよし、私は会議所の役員会を招集し、百坪の賃貸と寄付問題をはかった。

「新駅ができるについて階上の百坪を借りることができる。ただし、これには条件がある。場所に甲乙はつけるにしても、平均坪十三万円の権利金がある。権利金といっても、その内容は寄付金だから権利証をもらうわけではない。さらに毎月賃貸料を払わねばならぬ。また不良品を客に販売するようなことがあれば、解約するといった条件もついている。したがって百坪を細かく分割して個人にやらせると解約されるものが出ないとはかぎらない。そこで私が責任者になって“沼津ステーション・デパート株式会社”をつくり、設備の一部を整え、あとは個人で経営するといった形をとったらどうだろうか。一応会社が金を出して、そのうえでみなさんにまた貸したという形をとれば、個人に不手際があっても解約されることはあるまい。こういう条件で坪十三万円で借りる人がいるだろうか。希望者が少なければ、東京方面に有力な借り手があるから、そちらへ頼むことになる。私は地元の発展のために、沼津で全部引き受けてくれればそれに越したことはないと思うのだが……」

「間口一間、奥行四尺ぐらいのところは十三万円とは高過ぎる。坪十三万円かければ新しい店ができるじゃないか」こんな反対論がガヤガヤと出はじめた。

「商工会議所としては、一応引き受けたから、みなさんにおはかりしたが、希望者が少なければ東京の有力者に貸すことになる。希望者は二

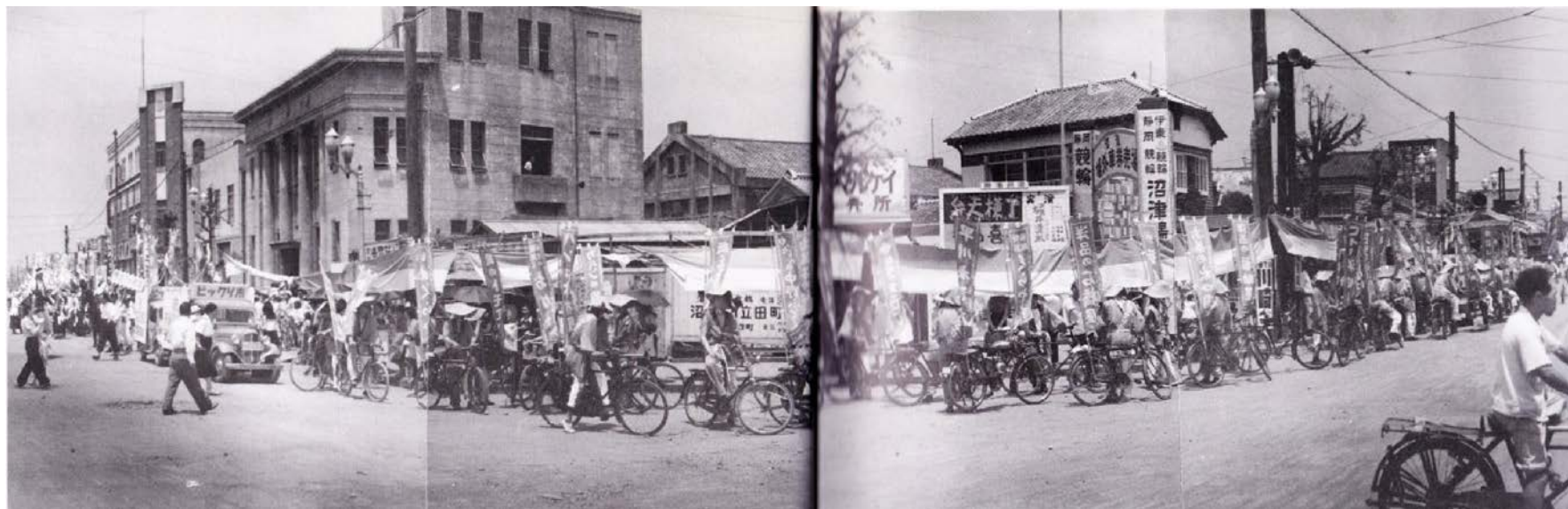
週間以内に申し出てもらいたい」これ以上話し合っても、ここではまとまるまい、考える時間を与えた方がいいと思ったので、私はそう言って役員会を打ち切った。

二週間経って、ふたを開けてみると、なんと申し込みは二・七倍もあり、こんどは割当に困るほどだった。予想通り私の作戦が奏効したわけである。】』

昭和28年7月 八幡町に沼津市公会堂竣工



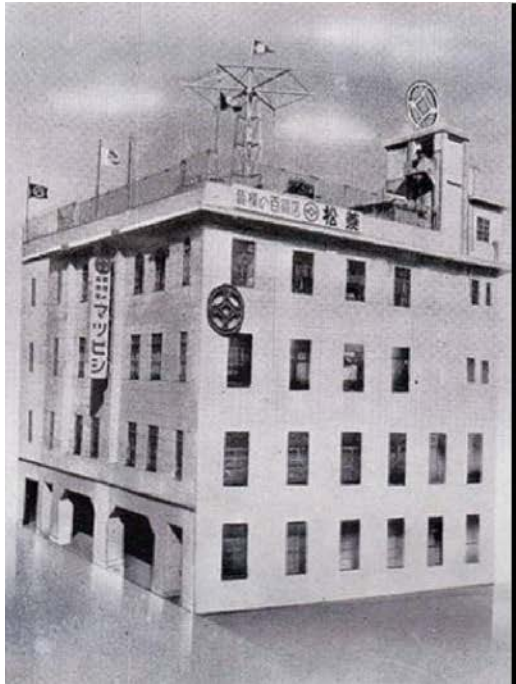
昭和28年7月 市制施行30周年協賛行事実施沼津市30周年
記念沼津商店主の宣伝自転車部隊



昭和28年7月 本通りで仮装踊り・沼津夏祭り駅前で商店会の沼津音頭踊り・千本浜公園でミス沼津審査会



昭和28年7月 松菱沼津店進出（昭和31年エレベーター運転・昭和46年閉店）



昭和28年12月 アークード西側が完成（東西総工費1億6千万円・総面積約2300坪）



昭和29年3月 7日 沼津青年会議所発足

昭和29年4月17日 藤倉電線(株) (明治18年藤倉善八東京神田絹綿捲線会社創業:富士根村王子製紙第二工場の疎開から【東京人絹→沼津海軍工廠→小糸車両工場】跡に) 沼津進出



藤倉電線株式会社沼津工場



昭和29年7月 沼津市警察署から県沼津警察署に（市警から県警に）

昭和29年7月 仲見世商店会「七夕まつり」始まる

昭和29年11月 アーケード東側完成し本通りアーケード街全面完成アーケード街



『アーケード街は西側が昭和二十八年十二月に、東側が同二十九年十一月に完成したが、総工費は約一億六千万円、総延面積七、五九〇平方メートル(約二、三〇〇坪)商店数五〇に及ぶ大規模なものであった。この商店街の二階以上が歩道に突出しているのは、都市計画による道路拡張のため各店舗を後退させる必要があったのを、松菱百貨店の建物の移動が困難なため、便宜的に松菱の一階に歩道を貫通させ、他の商店はこれに準じて一階だけ後退させ、二階以上は店舗兼住宅に利用させるという苦肉の策がとられたものである。これは全国でも類のない建築方式で沼津の一名所となり、四季を通じて各地から視察に来る特異建築となった。』

またこの地区は沼津市美観地区条令によって、この商店街は美観地区に指定されることになった。これにより電気看板の大きさ、蛍光灯の位置なども一定され、美観を害する造作物の設置を禁じられている。要するに商店街共同建築のモデルケースとなったのである。(沼津市誌)』

「戦後復興事業と防火建築帯事業合併事業:沼津市史」

昭和29年 中ノ島水族館（昭和5年開館）が三津水族館に改称、高台に新館を建設



昭和29年 沼津牧水祭始まる



昭和29年 百貨店の特殊指定

昭和30年4月1日 愛鷹・大平・内浦・西浦4カ村沼津と合併

4月29日 浮島村、原町と合併



沼津 駅

昭和30年4月 1 日 駿河銀行、旧本店跡地（通横町）に戦後大手町仮本店社屋から新築開店（鉄筋コンクリート地下1階地上4階）



昭和30年8月 沼津本通りアーケード竣工



昭和30年 伊豆国立公園指定される。

昭和30年(1955年)堤清二が西武百貨店取締役店長に就任

昭和30年 稲村椎茸問屋上本通りへ進出

昭和31年3月 第4代会頭田中清一就任

昭和31年 第二次百貨店法成定

昭和31年3月15日 沼津宝塚劇場開館

『“沼津寶塚劇場”完工(東宝系) いよいよ3月15日開館

上本通り東海劇場前に昨年1月から清水市鈴与建設がうけおって着工始めた総面積二百二十五坪鉄筋コンクリート三階建の工事は、最後の追い込みに日夜懸命の作業を続けているが、いよいよ十五日春の陽ざしに柔かく映えるクリーム色の劇場、沼津宝塚劇場と命名(社長猪俣勝人氏、支配人松本一己氏)し開館する。

東宝系、冷暖房装置、客席六百、収容人員千名、シネスコ・スクリーン常備、ほう画ワイドスクリーン使用、富士セントラル最新式影写機、発声器ビクター二階喫茶室にテレビ、公衆電話を備え客のサービスに当り、化粧室は全部水洗便所で県東部一をほこる劇場となるわけ。開館披露第一週目は十五日から二十日まで鶴田、三船出演の「暗黒街」、香川、木村出演の「奥様は大学生」を上映する。(黎明新聞昭和31年3月15日号)』

この時点での沼津の映画館は沼津文化劇場、沼津第一劇場、沼津映画劇場、沼津宝塚劇場、沼津銀星座、沼津東海劇場、沼津セントラル劇場7館。





昭和31年 上本通り商店街（沼津文化劇場前歩道）を行く若い女性。



昭和31年 御殿場線、蒸気機関車からディーゼルに（昭和42年から電車が走る）



昭和 31年 小田急ディーゼルカー御殿場乗り入れに対し沼津駅まで延長を国鉄・小田急に陳情（第1次小田急沼津乗り入れ運動）

昭和31年5月 第2次百貨店法公布

昭和31年6月1日 松菱デパート:エレベーター設置運転。

昭和31年6月5日 銀星座映画館新装開館（松竹・東映）

昭和31年7月2日 沼津法人会創立総会（沼津商工会議所ホールにて）

昭和31年7月 喫茶店プリンス新築開店

『 新装開店 新築改名御挨拶 新名 プリンス 旧名 沼津名産喫茶部 皆様に愛された喫茶「めいさん」を今度「プリンス」と呼んで下さい。プリンスは新築の落ち着いた雰囲気ので心から皆様をお待ちしております。 喫茶 プリンス「沼津駅前TEL 四七九 六六八」(沼朝昭和31年7月26日号広告)』

昭和31年8月23日 日限地藏尊 蓮光寺に建立

『日限地藏尊 蓮光寺へ建立 三枚橋と三芳町の町内会では、予算六十万円で蓮光寺境内へ日限地藏尊を建立することになった。

二十万円は鈴木製材が寄付、十万円は両町内のお婆さんが托鉢で集め、残り三十万円を両町内で十五万円ずつ献出し、八月二十三日の祭典までに完成する(沼朝昭和31年5月26日号)』

昭和31年8月 西武沼津店進出問題(この時点、既に駿鉄ビル建設は着工されていた)

商店街連盟(会長大橋規一氏)では、二十七日午後二時から商工会議所で役員会をひらき、対策について協議、意見書をとりまとめて九月五日までに通産省企業局商務課へ提出。

『駅前に西武百貨店 廿七日商連が対策協議

駅前、駿鉄の角へ西武百貨店沼津支店が建設される。地下一階、地上六階、三三七〇・六九一平方メートルの近代百貨店で、駅前の一偉観となるが東京資本によるこのデパート進出に対して、商店街連盟では、二十七日午後二時から役員会をひらき、対策を講ずると共に、意見書を通産省企業局商務課に提出する。

地上六階のビル 来年二月から開業

西武百貨店(東京都豊島区池袋二丁目一一八八)では大手町五番地駿鉄角へ、沼津支店の新設を計画し「西武鉄道、駿豆鉄道ビル」そして清水組によって工事が進められているがこれは鉄筋コンクリートと六階建三、五七〇・六九一平方メートル(地下一階四二四・一〇四平方メートル地上六階三、一四六・七平方メートル)の近代百貨店で、松坂屋静岡支店よりは小さいが、松菱沼津支店の二倍ほどの大きさ。塔屋には、さらにもう一階延べ七階のビルで、衣料、家庭用品、雑貨、食料品、加工修理、卸売などの売場のほか、美容室(三三平方メートル)食堂(四〇二平方メートル)が計画され営業開始は三十二年二月末日からと予定されている。

商店街に脅威? 五日までに意見書

松菱につづいて、それよりも更に大きいこの西武百貨店の進出に対して、商店街では生命線を脅かされるものとして強硬に反対する向と、却って商店街の繁栄になるものと、意見はさまざま商店街連盟(会長大橋規一氏)では、二一十七日午後二時から商工会議所で役員会をひらき、対策について協議、意見書をとりまとめて九月五日までに通産省企業局商務課へ提出することになった。《沼朝昭和31年8月24日(金)号》『西武百貨に街の聲 廿九日に諮問委員会

本紙既報のとおり、西武百貨店では(駅前駿鉄角に地下一階地上六階、三、五七〇・六九一平方メートル)沼津支店の建築に着手、来年二月末開業の準備を進めているが、市民間では市の繁栄策として歓迎する者と、商店街は生命線が脅かされると反対する者と、二つの意見が対立している。

これに対し商工会議所では、二十九日午後一時から卸売業者、小売業者、百貨店、消費者各代表、学識経験者、公共団体職員、商議所役員な

ど二十数名で構成する諮問委員会(商業活動調整協議会)をひらき、九月五日までに通産省企業局商業課に意見書を提出する。

生命線を脅かす”

西武デパート沼津進出に対して、今日午後三時から、大手共栄会、仲見世商店街、上土振興会、上本通共栄会、アーケード街大成会、南部商店街、沼津専門店会、沼津サービス店会、沼津チェーンストア会の代表者は商工会議所集って協議したが、商店街連盟としては生命線を脅すものとして反対を表明、諮問委員会にこれを具申すると共に、通産省企業局商業課に陳情を行うことになった。

各代表者の意見――

田村靖雄氏(アーケード街大成会)

沼津の人口は周辺を入れて十五万人だ。静岡や浜松のように周辺人口を加えて三十万もある都市なら影響は少いだろうが、沼津では共倒れになる公算大だ。将来はどうか知らないが、現状では反対だ。

柴田正氏(上土振興会)

駅前に大資本のデパートが出来るとことは、商店街にとって非常な脅威だ。たださえ立地条件のわるい上土の商店街は大打撃になる。多数の地元商店の死活問題として遠慮してもらいたいというのが、大部分の意見だ。

加藤俊輔氏(上本通共栄会)

市の発展のためには結構だという人があるかも知れない、また商店としても、立場によっては喜ぶ人があるかも知れない。それぞれ利害の立場に於いて違うと思うが、商店街としては脅威だ。反対せざるを得ないと思う。

杉山猪作氏(沼津サービス店会)

大反対だ。駅前に六階層もの大デパートが出来たら、大手も、上土も、本通りも、木町の商店街も客がここで、食いとめられしてしまい。苦しいやりくりを続けている商店街にとっては大打撃だ。

消費人口は増える だが商店街は大打撃

大川角太郎氏(仲見世商店街)

狭い見地から賛否をきめるのはいけないと思う。早計にきめず、静岡や浜松の事例をよく調整したい。

大竹新太郎氏(南部商店街)

みんなの意見はまだまとまっていない。しかし個人の考えとしては、困るには困るが、防げないではないかと思う。大デパートが来ることによって、市は繁栄し、また消費人口もふえると思うが、これがはたして商店街にいい結果になるかどうか、デパートはよくとも、われわれは駄目になるのではないかと心配だ。

山本義重氏(沼津専門店会)

専門店会ではチケットを利用して、長期分割収入を行っているが、東京あたりのデパートでも、これと同じ方法で月賦販売をはじめている。大資本のデパートで、同じことをされたらとてもかなわない。

渡辺盛作氏(沼津チェーンストア)

反対もあり、賛成もある人の利害によっていろいろ違うが、大勢は反対の線だ。《沼朝昭和31年8月28日（火）》』

『沼朝新聞昭和31年8月 30 日号記事:賛否両意見を提出 “西武百貨の公聴会“

駅前には建築工事をはじめている西武百貨店沼津支店の新設に対して、利害関係ある事業者及び団体、学識経験者などを以て構成する沼津市商業活動調整協議会は、きのう午後一時から商工会議所会議室で公聴会をひらいたが、東京資本のデパートの進出は商店街を脅かすとして反対するものと時期尚早を論ずるものと、これとは別の見地から、大局的に市の繁栄になるとして賛成するもの場から活発な意見が開陳された。

同協議会では、九月五日までに通産省企業局商務課に意見書を提出することになっているが、結論に至らないでの、公聴会そのまま発言をまとめて提出することになった。

市の発展になる だが商店街は反対

西武百貨店の新設について意見か求めるため商業活動調整協議会では、各階層から次の二十三氏を委嘱、きのう午後一時から公聴会をひらいた。◇商業活動調整協議会委員百貨店代表西川伝九郎(松菱沼津支店長)卸売業者代表岡田吾市(酒類卸商)同増田慶三(魚類卸商)同大橋規一(沼津青果市場専務取締役)小売代表吉邨勇(大手町大栄会々長)同柴田正(上土振興会会長) 田村靖雄(アーケード大成会会長) 同加藤俊輔(上本通り共栄会会長) 消費者代表大野虎雄(市社会福祉協議会副会長) 井関幸子(市連合婦人会会長)稲玉むめ(市赤十字奉仕団長)竹内鉄次郎(県土木建協会東部支部長)学識経験者西脇仁(商業高校校長)中江斎(工業高校々長)加藤ふじ(女子商業高校々長)地方公共団体職員内藤政次(沼津電話局長)土持留男(市商工観光課長)杉山善四郎(市農林水産課長)(沼朝昭和31年8月30日号)』

『西武反対不可能か 百貨店審査会五月まで見送り

駅前に建設中の西武デパート開店をめぐる地元小売商の反対と消費者の賛成意見が衝突、営業許可の実際の発言権を持つ百貨店審査会が十六日開かれ、最終的決定がでるものと注目されていたが、中村東京通産局長は、地元商店街連盟と西武側とが折り合わず、正面衝突の状態であるため遂に審査会を延期、建物が竣工する五月まで双方の歩みよりを期待する態度をみせている。

沼津商店街連盟杉山会長はじめ幹部八名は森商議事務長と同行、十六日東京通産局を訪れ、中村局長と会見、反対陳情を行い、種々懇談したが、百貨店審査会開催を通産大臣に答申する権限を持つ局長は、「建築も現在進行中のことではあるし、絶対的に反対は扱いに困るし、影響については今後に待たなければ好結果か悪結果は判断はできず、むしろ地元側としては夜間営業、貸売、外壳或いは売場などの制限や、商品の地元製造品や卸品の買い上げなど協定を結んで相携えていったら却って好影響も期待されないか、無論デパート側の地元との不協力的なやり方については注意する」との希望意見を述べている。

これについて近く局長幹旋でデパート側と地元商連との会見が行われるものとみられる。

(沼朝昭和32年1月18日号)

西武百貨店に制限 商連がきょう申入れ

百貨店審議会を無期延期させた沼津商店街連盟の西武デパート開店反対運動は、去る十六日通産局に陳情の折、中村通産局長から「絶対反対でなく、何んらかの話し合いで、歩みよってもらいたい」との意向が伝えられたが、きょう二十五日午前十一時から東京通産局で杉山商連会長ら五名と西武デパート代表五名が初会見を行い、意見の交換を行うことになった。

西武側としては地上五階地下一階を全部デパートとして使用したい気持ちらしいが、地元商連側としては売り場階数や外売りの制限を粗当強く申入れるもようである。

（沼朝昭和32年1月25日号）

西武商戦異状あり 商連と話し合い、物分れ

沼津駅前に進出、着々と工事を進めている西武デパー(駿豆ビル)の全階営業(地下一階、地上六階)に反対する地元沼津市商店街連盟(会長杉山猪作氏)は二十五日東京通産局長の斡旋により同局で西武側代表と初会見をしたが、「全階は認めぬ」という地元側と“通産局の妥協案に応じられぬ”の西武と双方の主張意見は真向うから対立して物別れとなり、五月上旬竣工する同ビルをめぐり開店の裁断は通産局の腹一つとなったが、両者が譲らないところから今後の成り行きが注目されている。

仲裁案は二割削減 双方ともに譲らず

両代表の会議は二十五日午前十一時から通産局で、地元沼津商店街連盟から杉山会長、吉邨、田村副会長、土屋理事と森商議所事務局長、西武側からは堤清二社長（平成25年11月25日死亡）、伊藤総務課長以下代表五名が出席し、中村通産局長と地元の世論を調査にきた江下商工課長が立ち会って行われた。

この会見で西武側は全階営業面積千八十坪の一割百八十坪使用削減で地元の同意を受け付けず、中村局長は二割の二百六坪を削ったかどうかと提案したが“これ以上の譲歩は絶対に出来ない”と断った。

これに対し地元沼津商店街側は百貨店法にふれぬ範糊内で営業(二階で営業場所四百五十坪)するならばよいがそれ以上では許せないと云い張り、双方の主張は大きな開きをみせ、物別れとなってしまった。

この意見の対立をよそに工事は一億二千万円の工費で着々進められ、すでに五階までを完了、残る一階と内外の装飾をするだけとなっているだけに、早期結論が望まれている。しかし今後の考慮を約して別れたものの両者の歩み寄りとは不可能な状態なので、通産省の判断で決定される状態となった。

（沼朝昭和32年1月27日号）』

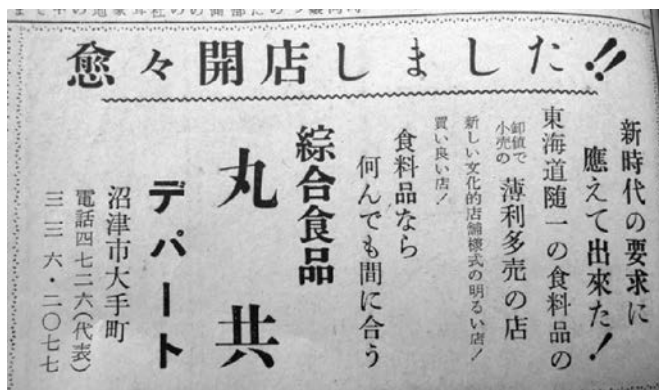
『 周辺業者も困る “西武”に重ねて反対

駅前建設中の西武デパート開店をめぐって、地元商店街連盟は百貨店法にふれない売り場面積(地下と二階まで四百五十坪)を条件に出したのに対し、西武側は売場総面積千八十坪の一割減を主張、通産局の二割減の提案もお流れになって通産省の断を待つことになったが、沼津商連とは別個に沼津市周辺の小売業者(駿東郡、富士郡)も再度反対陳情を行うことになり、二月一日、森沼津商議事務局長の案内で駿東郡商工会連合会長中野英太郎氏はじめ長泉、裾野、原各商工会、富士商議などの代表十名が上京通産局に反対陳情を行い、石橋総理大臣、永田通産大臣、徳永企業局長、中村通産局長、工藤百貨店審議会長に、大旨次のような陳情書を提出する。

「西武沼津店の開店で、富士川以東の小売業者の打撃は大きい。殊に沼津駅を起点とする御殿場線沿線中小山町までの各地と西隣原町以西富士郡下の零細小売業者は手痛い影響を受け、倒産者も多いと案じている。昨年十一月八日反対陳情を行つたが、遠からず竣工の運びなので再度陳情する。不許可か、売場面積の削減を希望する。」

なお沼津商連では三十日午後一時から商工会議所で役員会を開き、西武側との交渉経過報告を行い、今後の対策を協議した。(沼朝昭和32年1月31日号)』

昭和31年11月2日 丸共総合食品デパート(スーパー)開店。



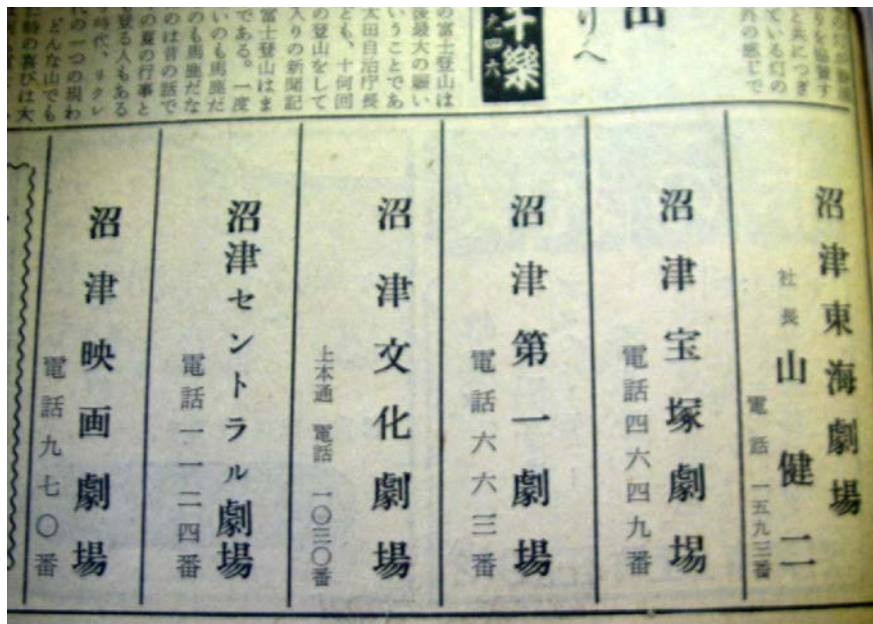
昭和31年11月16日 十字屋沼津店大手町(南仲見世)進出。(昭和38年仲見世有明軒ビルへ移転)

昭和31年12月 復明館医院仲見世から現在の大手町へ移転新築開院(沼朝昭和31年12月13日広告)

昭和31年12月 石橋湛山、内閣総理大臣に就任



昭和32年の映画館 沼津市(7) 沼津文化劇場、沼津第一劇場、沼津映画劇場、沼津宝塚劇場、沼津銀星座、沼津東海劇場、沼津セントラル劇場



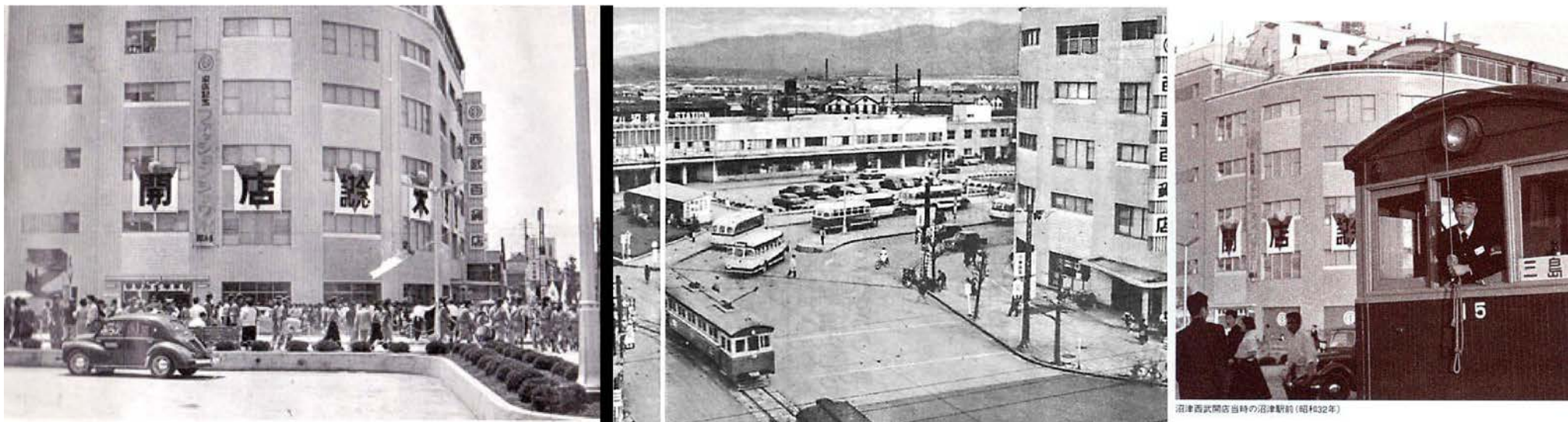
←近火見舞い沼朝新聞広告

昭和32年1月 沼津軒駅前広場東側移転新築開店（沼朝昭和32年1月 29 日号）

昭和32年3月 西武百貨店沼津進出反対決議書（沼津市商店街連盟：会長杉山猪作）

昭和32年6月1日 駿豆鉄道株式会社から伊豆箱根鉄道株式会社社名変更

昭和32年6月8日 西武デパート沼津店本館開店（伊豆箱根鉄道所有土地建物：建築施工清水組）（地下1階地上6階約950坪、建設費2億5 千万円、従業員230人）



《平成12年7月（2000年）株式会社西洋環境開発株式会社負債5538億円で清算し、「セゾングループ」が実質的に崩壊する。》

《平成25年（2013年）1月31日西武沼津店閉店・55年の歴史に幕が降りる》

『西武沼津店55年歴史に幕』

3万人来店、別れ惜しむ

JR沼津駅南口の西武沼津店(沼津市大手町)が31日、閉店した。1997年の浜松店、2006年の静岡店に続く閉店で、県内から「SEIBU」の看板が消えた。商都・沼津のシンボルとして君臨した県東部唯一のデパートは55年の歴史に幕を下ろし、多くの市民が別れを惜しんだ。

午後7時半に営業を終えると、名残惜しむ買い物客を従業員が深々と頭を下げて見送った。店舗前で行った式典で、山本辰美店長は「長らくご愛顧いただいた当店は本日、営業終了します。多くのお客さまに深く感謝します」と述べた。山本店長には地元の沼津大手町商店街振興組合(松田和孝理事長)から花束が贈られた。

沼津店は旧西武百貨店が1957年、地方第1号店として開業した。「沼津で東京のお買いもの」が当時のキャッチフレーズだった。ピークの92年2月期は約206億円を売り上げた。しかし、郊外型商業施設の台頭などで2012年2月期は74億円まで縮小。10年2月期から3期続けて赤字を計上していた。

《静新平成25年2月1日(金)朝刊》

昭和32年10月26日～30日 第12回国民体育大会(上本通り商店会歓迎アーチ)



昭和32年10月 沼津駅北口開設（開設工事3年半かかる）



『石橋治郎八著シルク紳士まかり通るより：以前、沼津駅は南口だけで北口に駅がなかったため、駅北へ行く人は南口で降りてからガードをくぐらねばならなかった。ところが、このガードはお粗末で雨が降ると水びたしで通れない。年々駅北の商店街も発展してくるし、北口に駅をつくらうという声は十年ほど前から聞かれていた。だが線路が十三本もある沼津駅に跨線橋をかけると、国鉄の古材を使っても一千万円はかかり、それを含めて工事費は全額地元負担でなければ着工できないと、国鉄では言っていた。これが北口に駅を実現する上の最大の障害となっていた

のである。

しかし、なんとか実現しようという地元の強い盛り上がりをバックにして、沼津駅北開発促進同盟会が発足し、私が会長になって運動にとりかかった。が、地元で集められる金はせいぜい一千万円どまりとあって、容易に実現しそうになかった。

私は高木沼津市長と何回も国鉄静岡鉄道管理局へ足を運んで陳情したが、うまくいかない。そこで地元選出の遠藤代議士に一肌脱いでもらい、中央で建設省の建設局長に便宜をはからうよう頼んでもらったところ「なにか特別の理由がありますか」と聞かれた。

「雨が降るとガードに水がたまって、子供達が北部の学校へ通えなくなります。学校を休むわけにいけないので、学生達は危険な線路の上を歩いて通っているのが現状です。どうしても北口に駅をつくらなければなりません」

学生を持ち出したのは、われながら上出来だった。それならなんとかしようというわけで、建設省から国鉄に話が持ち込まれた。

すると、すぐ静岡鉄道管理局長が本庁に呼ばれ、沼津北口駅工事の計画案をつくるよう命ぜられた。そのあとで管理局長に私が会って「石橋さん、東京でどんなことを言ったのですか。うまくやりましたな」とほめてくれた。

国鉄が見込んだ工費は二千万円あまりだった。うち地元負担は、七、八百万円で、あとは鉄道利用公債でまかなうことになった。いよいよ話がまとまったので、私達は遠藤さんといっしょに国鉄総裁室へ行った。ちょうど総裁が外遊中だったので副総裁と会った。

結局、副総裁は鉄道利用公債を使うことに応じたが条件付きだった。

「いま国鉄運賃の値上げ問題が起きていますが、遠藤さんがこれに骨折ってくれるなら、鉄道利用公債の件を考慮しましょう。反対されるようなことはないでしょうね」遠藤さんはちょっと渋い顔をしたが「もちろんだ」と答えた。こうした政治的掛け引きに異論をはさむ向きもあろうが、とにかくこうして沼津北口に駅が五年前に実現したのであった。

これにはほかの人の力もあったが、なんといっても遠藤さんの力に負うところが大きかったのである。』

昭和32年11月 中小企業団体の組織に関する法律公布

昭和32年11月 18 日 浅間町商店街ビル完成（平成21年閉鎖：静鉄マンション建設）



←平成21年閉鎖前の浅間ビル

『浅間町商店街は多層家屋建築と称し、総延坪数一、六八三平方メートル(約五一〇坪)、総工費三、一五五万円で、昭和三十二年十一月十八日に完成した。店舗の数は六戸で二階は住宅となし、三階と四階は十二戸の貸住宅となっている。(沼津市誌)』

『沼津朝日新聞昭和31年1月8日号記事：防火共同建築第二陣 大手町 浅間町三月早々に着工 アーケードに続く防火帯の第二陣として、浅間町および駅南小島屋百貨店が四階建の防火建築に三月早々着工する。』

浅間町は神社東側八軒延建坪五百八坪、一・二階が店舗併用住宅、三・四階が分譲住宅十六戸。小島屋百貨店は延建坪四百十五坪、二階以上が分譲住宅二十二戸となる。工費は浅間町二千九百万円、小島屋二千六百万円で、住宅公庫融資がそれぞれ千九百六十万円、一千八百六十万円。なおこの分譲住宅は五十年賦で分譲される。(沼朝昭和31年1月8日号)』

『四階建の不燃建築 浅間町六月ごろ完成か』

全国に先きがけてアーケード街が本通りにお目見得したが、不燃材料による横のデパートが六月ごろまでに浅間町に完成され観光沼津の名物

となる。浅間町北側の九軒が三千百五十万円で四階建の不燃鉄筋建築を行い、一、二階を商店と横のデパートにして三、四階を住宅にするもの工事は現在行われている下水工事が完了と同時に始められるもので三月ごろとみられ、竣工予定は五月二十日となっており、防火地帯としての認定が、このほど許可されたところから着手されたもの。

なお工費は公社借入八百七十一万円、公庫千九百万円、自己負担が六百四十五万円でまかなう。またこれは駅前十字路の四百坪に二千八百八十三万円の工費で、基礎工事中の地下一階、地上四階の小島屋と同様に、横のデパートとして各地商店街からも注目されている。(沼朝昭和32年1月25日号)』

昭和32年 商店街公共用歩廊施設の建設助成を県知事に陳情

昭和33年3月10日 赤線廃止前夜記事

『昭和33年3月10日沼朝記事より:昭和33年4月1日より売春禁止法に先んじて、沼津の特飲街は3月10日から転廃業。西条、八幡町、市場町、錦町、西宮後、上本通り、出口(青線、白線)緑新地(赤線)。緑新地=5軒10人、添地=18軒46人、八幡町=5軒10人、その他5軒8人。計特殊飲食33軒、女74人。昭和32年12月末では39軒女127人であった。』

昭和33年4月1日 売春防止法(1956年5月制定)の完全施行

昭和33年4月 沼津仲見世商店会(大橋光雄会長就任)



昭和33年5月 消防庁(八幡町)完成



↑ 八幡町前の御幸町沼津消防署

昭和33年8月21日 沼津駅前「愛の母子像」除幕式(像作和田金剛・詩文井上靖:沼津赤十字奉仕団設団十周年記念)



『すべての人の幸せ 沼津赤十字奉仕団 十周年に記念式

すべての人人のしあわせをねがい、蔭の力となって人人に奉仕しましょうと、沼津市赤十字奉仕団が設団されてことしは十周年、同団では

二万団員のうちから代表者二千五百名が集って、きのう二十一日朝十時二十分から駅前広場で「愛の母子像」の除幕式を行い、引きつづき午後一時から市公会堂で記念式典を挙げ、赤十字の旗のもと、さらに「身近な奉仕をひろげ、すべての人人と手をつなぎ、世界の平和につくしましょう」と誓いを新たにしました。千羽の鳩舞い上る 母子像と詩碑の除幕 沼津日赤奉仕団では、きのう設団十周年記念式典に先立ち、朝十時二十分から駅前広場に団員一千五百名が集まって「愛の母子像」の除幕式を行った。:(沼朝昭和33年8月22日記事)』

昭和33年9月26日 狩野川台風災害 沼津一三島間電車停止



昭和33年11月1日 東海道本線ビジネス特急「こだま号」登場



昭和33年12月 19 日 新幹線の建設計画が承認される

昭和34年 仲見世商店街組合設立

昭和34年4月20日 東海道新幹線起工式:十河総裁(新丹那トンネル熱海口)

昭和34年9月17日 沼津ライオンズクラブ設立(会長塩谷六太郎・幹事宇野紳七郎)

昭和34年11月 第5代会頭 岡田吾一就任

昭和35年2月8日 「東海道広軌新幹線」コース内示説明会

東海道線は昭和三一年(一九五六)に全線電化を完了したが、増加する輸送需要にこたえるには抜本的な対策が必要とされた。そこで昭和三三年一二月、新幹線の増設が決まった。国鉄は昭和三三年度から調査・測量をはじめ、翌年度から着工した『東海道広軌新幹線』(日本国有鉄道)。新幹線のルートや駅の設置場所などの情報は厳重に秘匿され、変更は至難といわれた。

市域のルートが地元を示されたのは、昭和三五年二月八日、静岡市の町村会館で開かれたコース内示会が最初であった。内示会には勝又沼津市助役が出席し説明をうけた。

沼津市では戦時中に計画された弾丸列車のルート

(参考：昭和28年版沼津市街図)を前提に都市計画を進めていたが、内示会で示されたルートはずっと北寄りの愛鷹山麓であった。

この地域は、北に向かって発展中の沼津市にとっては、将来に残された希少な開発可能地であった。助役は、地元の意向として、弾丸列車のルートを希望すると伝えたが、地盤の関係で難しいというのが国鉄側の説明であった『沼津朝日』(昭和35年2月10日)。

これより先の昭和三四年七月、沼津商工会議所常議員会は、新幹線沼津駅設置運動を起こすことを決めた計画は極秘だが、県内の駅は三駅程度、うち静岡と浜松は決まり、東部地区は未定と噂されていたためである。この運動は立ち消えとなったらしく、新たな動きはコース内示後となった。

昭和35年3月 三枚橋に沼津市立病院落成(昭和63年7月東椎路に移転新築)



昭和35年3月 裁判所・検察庁・法務局完成



昭和35年 新幹線起工式

昭和35年5月 三信沼津支店聖マリア跡新築移転(昭和24年大手町に沼津支店進出)



昭和35年6月 理研光学(株)沼津工場完成(昭和11年2月市村清「理研感光紙株式会社」設立東京大田区)



↑ 沼津進出時

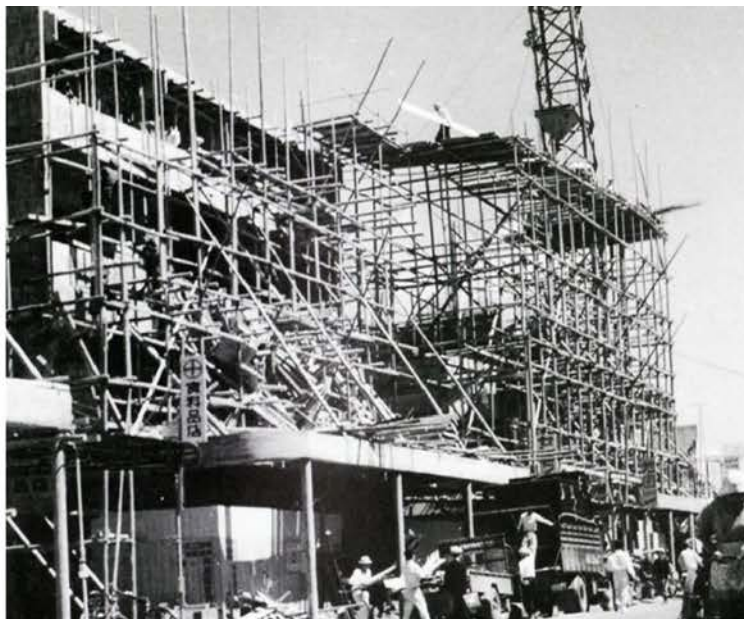


↑ 初期リコー沼津工場

昭和35年7月 上土センター街共同ビル完成



共同ビル建築前の上土町



『上土商店街は当初東西両側の全商店が、四階建中高層耐火建築を造り、二階の全面を歩道となし、ここにも商店街を設ける特異な建築をなす計画であつたが、全部の足並みが揃わず、途中で脱落者が出てきた。その結果三階建てと四階建てのまちまちな店舗ができて、一貫した建築とはならなかったが、昭和三十五年七月までに二十七戸の店舗が完成し、いわゆるセンター街として営業を開始した。この総工費は約一億八千万円、総面積七一五〇平方メートル（二一六七坪）で、この中には最後に建築されたマキバ百貨店は含まれていない。（沼津市誌）』

『沼津朝日新聞昭和31年11月7日号記事： 四階のアーケード 上土振興会が建設

上土商店街と通横町の一部をふくむ商店街を以って組織している上土振興会では、仮設日除けの撤去を契機として、四十三店舗（五十一軒）が、総工費三億円の予算で、鉄筋コンクリート四階建の準不燃大アーケードを建設することになった。来年三月着工、来年末までに完成する計画を進めている完成の暁は上本通りアーケード街と相まって沼津の偉観となるものと見られている。

名実ともに“名店街”間仕切りなし 横のデパートに上土振興会(通横町の一部を含む四十三店舗、五十一軒)では、仮設日除けの撤去を契機として、鉄筋コンクリート四階建の横のデパートとも言うべく大アーケードを建設することになった。

室賀薬局と太洋相互銀行から、大坂屋本店と長倉ガラス約二〇〇米の予定で、一・二階は商業目的、三、四階はアパート貸室とし、屋上はテニスコートなども備える遊園地を計画している。店舗は一軒あたり間口三間、奥行十間ぐらいとするが、各店舗の間切りをとり払って、横のデパート式にしたいと言っており、ヒサシはプラスチックとし、エレベーターやエスカレーターも設備する計画だと言う。このアーケード建設の目的とするところは、大資本に立向うためには、

各店舗が個々の利益を誘えることなく一町内が力を結集して、相互の繁栄をはからなければならないとするもで、名称も「沼津名店街」として、名実ともに名店街たらしめようとしている。総工費予算は三億円で、このうち約八割五分は県住宅公社と住宅金融公庫から借り受け、後の頭金一割五分は、すでに各店平均十万円ほどの積立貯金をしており準備が進められている。

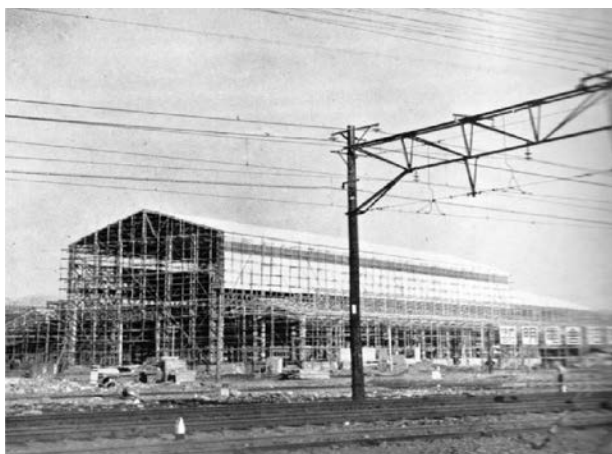
上土振興会の内田祥司氏の話によれば、来年一月中に設計をすませ、三月ごろから着工、来年末までに四ブロックに分けて建設、完成する計画だ。(沼朝昭和31年11月7日号)』

『上土アーケード 今週中に具体化 町方町から通横町を結んで一大商業センターを築きあげようとする上土アーケード建設の構想は、一時ストップ状態になっていたが、新年に入って急速に話が進展、今週中には具体的に決るもようである。同アーケードは全国初めての両側五十一軒を結ぶ四階建鉄筋コンクリート建築で二階にも歩道を設け階上商店街も建設しようとするもので、更に東西商店街を結ぶ地下道を二ヵ所作り、ここにも地下商店街を設ける構想である。

これに要する工費は三億二千万円から四千万円が見積られ、住宅公庫の融資は愛けるが、全階自己権利となり、自己資金も二年前から日掛けを行い資金面でも明るい見通しとなっている。(沼朝昭和32年1月25日号)』

昭和36年1月 郡是製糸沼津蚕種製作所閉鎖(跡地5年後下河原団地となる)

昭和36年4月 (株)明電舎沼津事業所竣工(明治30年三吉工場より重宗芳水独立創立)



昭和36年4月29日 ほていや(ユニー)沼津店開店

昭和36年10月1日2日 日枝神社・浅間神社・八幡神社(市場町)沼津秋合同祭典(人出15万人)

昭和36年11月 沼津電報電話局舎新築・自動式となる



沼津電報電話局

昭和36年12月 第1次仲見世アーケード完成、開通式



↑昭和36年12月 仲見世アーケード完成



昭和37年4月 商店一斉休日に制定（毎月第二・第三・第四水曜日）

昭和37年4月1日 中央ガード改装開通（中央ガードはもと川であった、大正12年関東大地震時には通じていた）



『石橋治郎八著シルク紳士まかり通るより：北口駅はできたが、ガードの方は相変わらずで、雨が降れば水浸し、また狭くて大きな車は通れない。こんどはガードの拡張工事をやらねばならぬ。これなくしては沼津の発展はない。こういう声が地元で高まっていた。

そのころ、遠藤代議士が岸内閣の建設相に就任したので地元の沼津市で祝賀会が開かれた。市内千本の遠藤邸に永野運輸相と藤山外相がみえたので挨拶に伺うと、私は三人が話をしていた奥の座敷に通された。こんなチャンスはまたとない。ここでガード拡張の糸口をつかまねばならない。さて、どう切り出したものかー。

「遠藤さん、このたびは大臣にご就任でおめでとうございます。ところで一つ、私はうまいことを考えついたのですが、如何でしょう。これは昼寝していても代議士に当選する方法なのですが……」

選挙といえば大臣でも眼の色を変える。私は第一球を投げて相手の出方をうかがった。

「なんだ、なんの話だ」はたして永野さんが身を乗り出してきた。

「それは沼津の南北の間、盲腸の手術をやるのです。この手術をしないと沼津は発展しません。こいつを遠藤さんにやってもらいたいのです。

もし、ガードの拡張が実現すれば駅北住民の遠藤さんへの感謝はたいへんなものだと思います。幸い所管大臣の永野運輸相もおられることだし、ぜひご尽力願いたいものです」

「遠藤君、そういうことがあるのかね」永野運輸相がいうと遠藤さんが「どのくらいかかるかね」と私に聞いた。「駅長の話ではガードの改築をやると一億五、六千万円ぐらいはかかるそうです」永野さんがまた一膝乗り出して「そんなわずかなもんかい。そんないいことがあるなら君やろうじゃないか」といとも簡単に遠藤さんにそう言った。

その間、五分も経ったろうか。これでガードの改築がきまってしまった。予算は建設省でとるのだが、仕事は運輸省がやるのだから両者の連絡がうまくつかなければ仕事にならない。それが所管大臣が二人、それも時の首相岸信介と親分、子分の関係にありた二人が同席しているときに話を持ち出したので、たちまちまとまってしまった。

すぐ陳情書を出せというので、私が会長をしていた駅北開発促進同盟会の名で陳情書を出した。ガードは三十七年四月一日、ついに開通した。』

昭和37年5月 商店街振興組合法公布

昭和38年2月5日 沼津・三島間路面電車(チンチン電車)廃止(明治39年11月28日沼津三枚橋・三島広小路間路面電車開通)



大手町四ツ角



沼津三枚橋



沼津市街

昭和38年2月 6 日 駿豆肥料店火災(幼い兄5歳、妹2歳焼死)

昭和38年3月 沼津石油コンビナート反対運動盛り上がる

昭和38年4月 スーパーマルトモ本社ビル建設(地上6階地下1階)



沼津市街

昭和38年10月 15 日 長崎屋沼津店、移転開店(平成14年1月閉店)

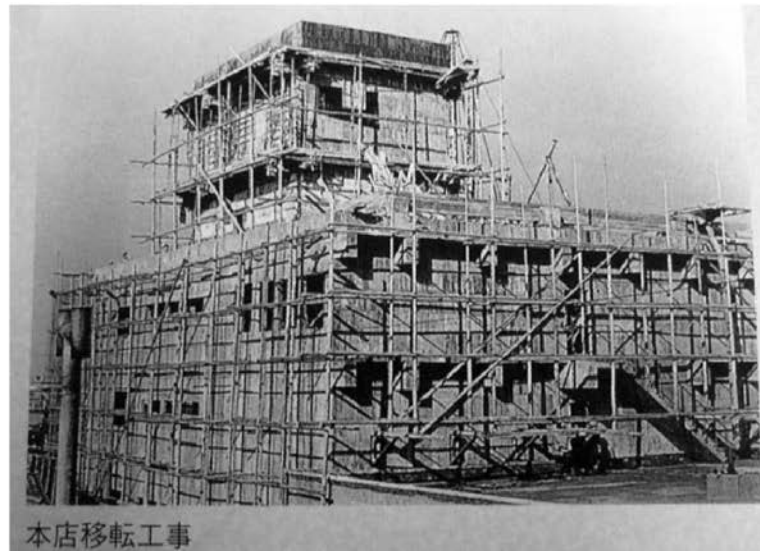


←昭和62年の長崎屋

昭和38年 十字屋、南仲見世（新仲見世）から仲見世移転開店（有明軒ビル）（仲見世店平成6年11月末閉店）



昭和38年12月 沼信本店ビル上本通りに新築（昭和25年4月20日、大手町商工会議所内にて沼津信用組合営業開始、名取栄一理事長）



↑ 沼津信用金庫本店ビル建設中の画像

昭和39年1月23日 大手町会館落成



▲城岡神社

昭和39年3月 16 日 沼津信用金庫本店新ビル移転営業開始



↑ 画像は昭和39年本店ビル



↑ 50年代の沼信本店ビル

昭和39年4月 市営千本浜水族館廃止（昭和25年4月 15 日千本公園に開館）



昭和39年4月 15日 上本通り共栄会、水銀街灯設置計画発表（白壁明敏会長）

「水銀灯の街造り 上本通りでも65灯

上本通り商店街(白壁明敏会長)は、夜の商店街を明るくするため、水銀灯を新設する。昨年上土町がおこなったものと同様で五月末ごろ着工の予定。

約六百万円の費用を投じ町方町アーケード商店街の北側から東映劇場前交差点までに六十五灯の水銀灯をとりつける。 工事は現在のネオン灯の柱を利用することになっており、中元大売出しまでには完成する。できあがれば夜の街がこれまでより数倍明るくなり、買物客の増加が期待されている。(沼朝昭和39年4月15日号)」

昭和39年5月6日 株スーパーマルトモ第二種大規模店舗表示

昭和39年6月10日 旧国道地下道開通



昭和39年7月 1日 淡島海洋交園オープン



昭和39年9月 5日 沼津ゴルフクラブオープン (27ホール)

昭和39年9月 5 日 いさみや仲見世進出開店



昭和39年9月 13 日 コンビナート反対住民運動、石油コンビナート進出反対沼津市民総決起大会に25,000人集まり、9月 18 日、市長、誘致断念を発表



昭和39年10月 1 日午前6時 東海道新幹線開通



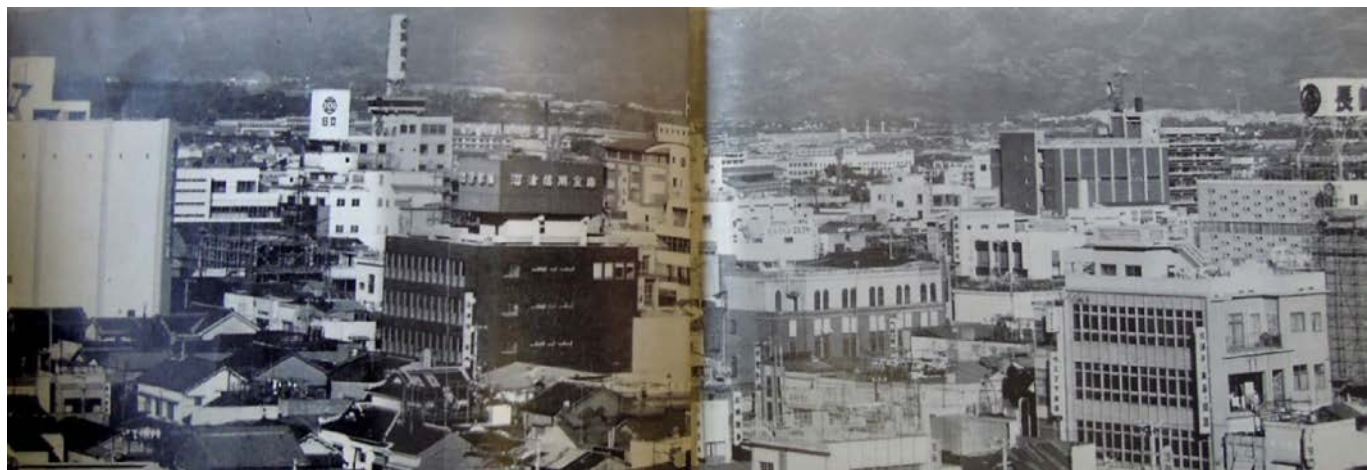
昭和39年10月3日 沼津駅前本店新築オープン



昭和39年10月 10日 東京オリンピック開催



昭和39年10月 ボウルビルオープン（上本通り商店街）



昭和39年12月 リコー通りアーケード完成（昭和37年高島町大通り商店会からリコー通り商店会と改名）



昭和39年12月 商工会議所が「上本通り商店街総合診断」実施決定（昭和40年1月～3月診断）

昭和40年3月 無形文化財：加藤唐九朗壁陶板画：（静岡商工資金協同組合ビル竣工：添地）



昭和40年3月20日 旧国道地下街「味の近道」開店（8店舗）

味のちか道

本日 開店

☆

開店ご案内

ありがとうございます
ございました
味のちか道（国道地下街）は皆様の御力添えのおかげをもちまして本日新装開店の運びとなりました。
本道にありがとうございます
いしました。
これからは常にお客様への感謝の心をこめて良いものを少しでも安くご利用いただけます
今後共よろしく御引立の程をお願い申し上げます。
味のちか道
八店の店主
従業員一同

さるこ あんみつ
コーヒ
ニュー
いせや
いな岡

そば うどん
ラーメン生汁
味のマルトモ
おにぎりは
喜久屋

ペペーふとん
ママの夢がいつかい
すぎやま
ふとん店

あなただけの
洋服なら
テーラー
トガシ

川口養魚店

仲見世商店

北と南を結ぶ 味のちか道

いな岡 トガシ
味のちか道
いせや マルトモ 喜久屋 川口養魚店

昭和40年4月 1 日 振興組合沼津アーケード名店街設立

昭和40年4月 沼津警察署、新庁舎落成（三園町）



↑ 大手町時代の沼津署

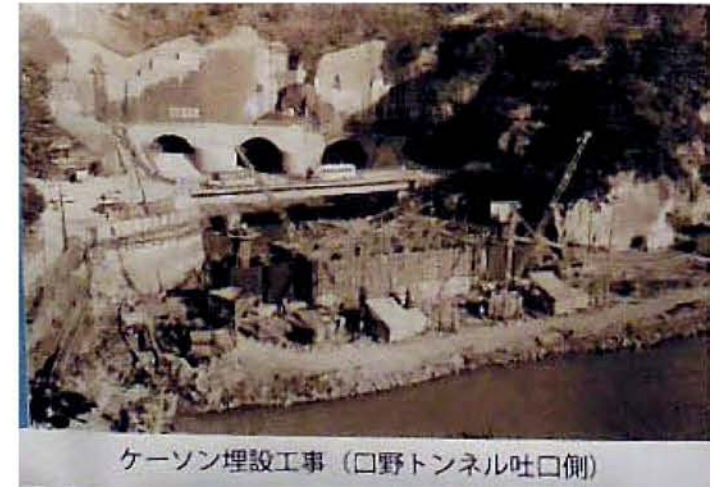


↑ 三園町の新警察庁舎

昭和40年7月 狩野川放水路竣工



▲ 狩野川放水路竣工記念碑



ケーソン埋設工事（口野トンネル吐口側）

昭和40年12月 1 日 富士急名店会館開店（実質平成25年3月末で営業終了）

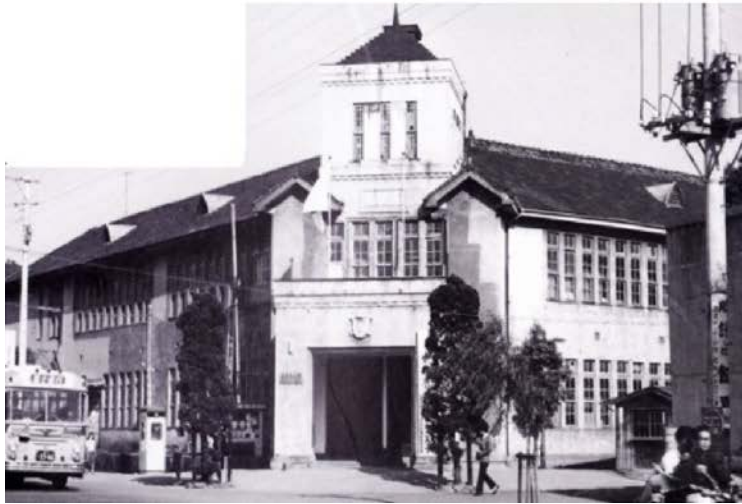


「明二日いっせい開店の沼津駅前富士急名店会館は、東京、横浜など全国にその名を知られた老舗、有力店が八十店近く 出店するが、当沼津市内からは、太陽堂カメラ店、丸一高橋、杉浦洋服店、増山食品、旭園本店、秋月、マルサン書店、大岡農園、ササール洋装店、庄司産業、木村屋、三島屋酒店、魚新商店、森田菓子店などが進出することになった。（沼朝昭和40年12月1日号広告記事）」

昭和41年1月 沼津センター街振興組合設立

昭和41年5月 いさみや倒産（負債8億円）

昭和41年7月 1日 沼津市役所新庁舎完成



↑ 旧市役所庁舎



↑ 新市役所庁舎

昭和41年9月 25日 丸井沼津店進出開店（平成16年5月閉店）



↑ 丸井ビル建設中



↑ 丸井開店後

『(静岡新聞平成15年12月10日朝刊より)』

丸井沼津店5月閉店

中心商業地集客力低下は必至

丸井(東京)が沼津市大手町の丸井沼津店を来年五月の大型連休明けに閉店し、撤退する方針を決めたことが九日、分かった。同店は JR沼津駅南口に広がる商店街の中核店舗。市が進める駅前再開発ビルが商業施設から住居中心の構成になったことに加え、撤退で中心商業地としての集客

力低下は確実で、地元商店街や沼津商工会議所は深刻に受け止めている。

同店は七階建て、売り場面積三千八百六十八平方メートル。一九六六年(昭和四十一年)九月にオープンした。しかし、売り場が狭い上にエスカレーター設備もなく、「店舗大型化を進めている中で、品ぞろえや設備面で十分なレベルにすることができなかった」(広報部)という。一時は駅前再開発ビルの核テナントとして入居する話も浮上したが折り合わず、最終的に閉店を決めた。跡地利用は決まっていない。

中心商店街に衝撃

「街の真ん中に爆弾が落ちたような衝撃」。沼津市の中心商店街を引っ張ってきた丸井沼津店の閉店が明らかになった九日、地元商店街は驚きを隠さなかった。歳末商戦を迎える中、商業関係者からは「沼津全体のイメージ低下が気掛かり」「駅前という立地がもはや有利に働かないということか」と不安視する声が相次いだ。JR沼津駅南口から同店を経て仲見世商店街に抜けるのが、市内でもっとも通行客の多い場所と言われる。しかし、駅前では近年、十字屋、ニチイ、長崎屋が撤退するなど大型店が振るわない。

同市商店街連盟の芦川勝年会長も「これからの商業地は立地ではなく、魅力ある個店がどれだけ多くあるかが問われるのではないかと指摘する。同市が中心商業地再生の目玉として、駅南口で進める再開発ビルの専門店誘致にも、丸井の撤退がイメージ的にマイナスに働くことを市関係者は危惧する。山田寧助役は「商店街のにぎわいには買い物客の回遊性確保が重要。影響は大きい」と懸念している。』

昭和41年11月 25 日 沼津上本通り商店街振興組合設立総会（上本通り共栄会より）

『発展期す上本通り商店街 振興組合を結成

昭和四十一年十一月二十五日創立総会

水銀灯設置など、商店街整備に意欲を見せていた上本通り商店街では、さらにその振興をはかるため、現在の商店会を発展的に解消新たに商店街振興法にのっとり「上本通り商店街振興組治」を結成することになり、二十五日午後一時から沼津僧用金庫会議室で創立総会を開く。

アーケード街、上土センター街、仲見世通り、その他駅前周辺など市内の商店街は年々整備がすすんで来ているため、これらに負け ない新時代に即した商店街作りを実現するよう同組合が結成されることになったもので、市内でこの種法組合を結成するのは仲見世、上土、アーケード街につづき、上本通りが四番目。

創立総会では定款、事業計画を決定したあと、役員を選出などを行うが、新組合員には同地区九十九店舗が加入、アーケード（公共歩廊）の補修、歩車道の整備、水銀灯など夜間照明の整備拡張、共同大売出し、さらに仲見世商店街と共同しての仲見世通りー上本通りをつなぐ東西道路への全面、又は両側アーケード建設事業などを積極的に行ない、駅に近いという地の利を生かした消費者に好かれるショットピングセンターの実現につとめる。

また他商店街に比較して商店の本建築が若干遅れていた上本通りでは、共同ビルの建設気運が最近次第に高まって来ているため、組合が中心になってこれらの事業も強力にすすめて行くことを計画している。（沼朝昭和41年11月23日号）』

昭和42年1月12日 遠藤新聞舗二階火災

昭和42年1月20日 静浦ホテル閉館(昭和10年開館)



『静浦ホテル 昭和三十年(一九五五)八月二九日の静岡新聞に「十年ぶりでロ本側へ沼津静浦ホテル」という見出しの記事が掲載された。以下に引用する。

沼津市志下の静浦ホテル(経営者清水はるさん)は終戦以来駐留軍兵の海浜保養所として使用されていたが、九月末日限り契約を解消する旨同ホテルに正式通達があり接收後丸十年ぶりで米軍の手を離れることになった。同ホテルは去る廿一年春米軍将校用の保養施設として接收され廿七年に解除はされたが引続き米軍と再契約、以来下士官の宿舎に使用されていた。建物は地上三階地下一階、三二室で八十五名の従業員を雇っている。解放後は接收前の観光ホテルで再スタートする。』

昭和42年2月8日 沼津上本通り商店街振興組合第一期総会開催

昭和42年2月22日 沼津会館全焼

昭和42年7月 吉野寿司ビル(上本通り商店街)竣工



昭和42年7月 15日 家具のカトー(上本通り商店会)新築新装オープン



昭和42年7月28日 沼津東高校、御幸町から岡宮へ移転

昭和42年8月30日 沼津市中心市街地9路線全面駐車禁止となる

昭和42年10月1日 沼津商業高校、丸子町から清水町徳倉に移転

昭和42年10月1日 富士急百貨店開店(実質平成25年3月末で営業終了)

昭和42年10月1日 桃中軒会館開館(総工費10億円:地下2階地上8階)新築 大手町6番地



↑ 桃中軒会館建設中

↑ 開店した桃中軒会館

『 桃中軒は明治二十四年(一八九一年)四月一日の創業。秀吉は三代目である。初代の三千三は、明治維新のころ、徳川十五代将軍とともに江

戸を去った旗本の一人。一とあります。

〃 桃中軒〃と言えば沼津、沼津と言えば〃桃中軒〃と言っても良い程、親しめ、愛されてきた老舗です。

七階の宴会場の窓からは、駅越しに雪を戴いた富士山を望見し、南側の特別食堂《スターダスト・ルーム》からは、眼下を流れる狩野川から港湾、香貫山、そして遠く千本浜を眺望する、まさに沼津がそこにある感がありました。

沼津という土地柄は、海産物といい、農作物といい、豊富な産物があり、それが桃中軒のお弁当、食堂の味に密接につながっているとは専務のお話です。

そこで消費される、お米や、お惣菜はバク大なものがあります。一例をあげるとある農協の一日分の注文だけで、お米で五十石とのこと。もちろん、お米は自家精米だそうです。

戦後、赤レンガのグリルで親しまれていた桃中軒グリルが、現在の駅前ビルになったのが昭和四十年です。今では、地階にパーラー、お好み食堂。七階に特別食堂《スターダスト・ルーム》、宴会場《松琴・弥生》があり、八階は、大宴会場《高砂・富士・羽衣》、結婚式場《鳳凰》の間があります。

七階は、他に《桂》《葵》《栄》《翁》《翠》《錦》と名付けられた個室があり、八階インペリアルフロアでは、写真室、美容室、控室、と結婚式の全てが用意されてあります。

（月刊狩野川№23）』

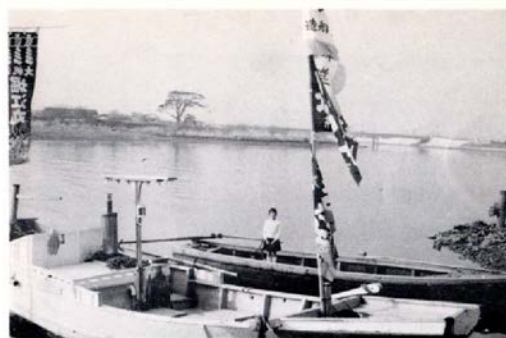
昭和42年11月 西武百貨店本館7階増築

昭和43年3月2日 港大橋開通(全長180.82メートル、巾16メートル:2億4690万円)

昭和43年3月5日 緑屋開店(いさみやビル:営業時間10時～20時)(昭和51年閉店)

昭和43年4月 原町、沼津市と合併

昭和43年5月 我入道の渡し終わる



渡船 我入道と下河原を結ぶ唯一の足として永年利用された渡船も港大橋の開橋によって昭和43年5月に廃止された。



昭和43年6月 ほていや進出(仲見世「富士峰ビル」)



昭和43年7月 御殿場線電化



昭和43年 新仲見世アーケード完成

昭和43年 協同組合沼津商連会館設立

昭和44年 沼津郵便局本局(昭和4年建設)大手町から市場町へ移転



昭和44年1月 第6代会頭岡野喜一郎就任



(三島操車場の昇格 新幹線の新駅 関係市町村で一致)

国鉄新幹線の東部駅設置問題は関係者の熱意が急速に高まっているが、市は近日中に富士川以東田方郡下までの関係各市町村当局に呼びかけ、実現運動をすすめるための組織作りに乗り出すことになった三島操車場を昇格することに関係者の意向が固まってきたので、東部駅設置促進同盟会程度の組織を再編成するとともに、国に対する強い運動を起す計画で、四月中に組織化を終り、地元関係代議士の協力を得て陳情などを実施する。国鉄などの新幹線に対する考え方が変わり、地元の運動いかんでは実現の可能性もあるといわれているだけに、東部を一丸とする新組織の運動成果に期待がかけられている。(昭和40年4月1日記事より)

『三島駅の謎』

新幹線でここだけ通過線が外側、待避線が内側にある

三島駅には上下各1線ずつの通過線が外側に敷かれ、その内側に島式ホーム1面と待避線となる2本の線路とが設置されている通過線をもつ新幹線の駅のうち、三島駅以外の各駅は皆、内側に通過線、外側に相対式ホームと待避線がそれぞれ1線ずつという線路配置が標準だ。したがって、この駅の線路配置は他の新幹線の駅には見られない独特のものとなっている。

なぜこのような線路配置となっているかという点、列車が頻繁に折り返すことを前提としてつくられたからだ。単に折り返すだけならば、通過線が内側にある他の駅でも渡り線を設けておけばできる。しかし、多くの列車が折り返すとなると、通過列車の運転されている本線を折り返し列車が逆送したり、横切ったりするのであまり好ましいことではない通過線を外側に置き、内側の線路で折り返すようにすれば、通過列車の運転されている本線とは分岐と交差だけで済む。東海道新幹線開業当時の国鉄はこう考えて三島駅の線路配置を決めたようだ。

三島駅の線路配置にも欠点はある上下双方の本線の間にはホームと線路とが置かれているために、駅の前で通過線がカーブを描いてしまうのだ。ホームの幅は最低9メートル、待避線の幅は4・6メートルずつなので、少なくとも18・2メートルは膨らんでいることになる。

国鉄の資料によればカーブは上りの通過線だけに存在するという。地形図で測定すると、この曲線は三島駅の前後それぞれ約500メートルにわたって設けられていて、その半径は6000メートル。最高速度時速270キロの列車が減速する必要はないが、曲線には変わりはない。カントは70ミリ設けられていて、直線区間と比べれば線路の保守は面倒だ。そのためか、後に建設された新幹線では折り返しが必要な場合でも待避線を通過線の外側取るようになった。

ところで、三島駅の歴史はややこしい。熱海駅から15・87キロ(実キロ)しか離れていないため、東海道新幹線の開業時には設置されず、1969年(昭和44)4月25日に開設されたからだ。

東海道新幹線開業後、国鉄は温泉客でにぎわう熱海駅への利用客のために東京熱海間の区間列車を運転しようとした。しかし、熱海駅構内は敷地が狭く、列車が折り返すためのスペースがない。そこで、当初は静岡駅で折り返し、熱海―静岡間は回送列車として運転する計画を立てる。これは無駄だと考えた国鉄は、三島駅付近に折り返すための折返線1線と車両を留置するための電車留置線(でんりゅうせん)(以下電留線)を3線を置く。この折返線は現在の三島駅のホーム付近に設けられた。工事は開業直前の1964年(昭和39)年7月に始まり、1966年(昭和41)年9月27日から使用を開始している。

折返線と電留線は効力を発し、早速拡充する必要に迫られた。このとき、地元から駅を設置してほしいとの要望が出される。検討の結果、国鉄は必要な土地5700平方メートルを無償で提供し、工事費5億5000万円(現在の約18億217万円)を全額負担するならばという条件を付け、駅の設置が決まった。

工事は1967年(昭和42)2月にスタート。新たに12線つくられた電留線は1968年(昭和43)10月1日に完成し、三島駅は先に記したとおり、1969年4月25日から営業開始の運びとなる。

東海道新幹線三島駅の現在の乗車人員は1万3696人(2003年度)熱海駅の4974人(同)を大きく上回っている。三島駅の開設は地元にとっても国鉄、そしてJR東海にとっても「お得な買い物」となったのだ。

(新幹線謎と不思議:梅原淳著)』

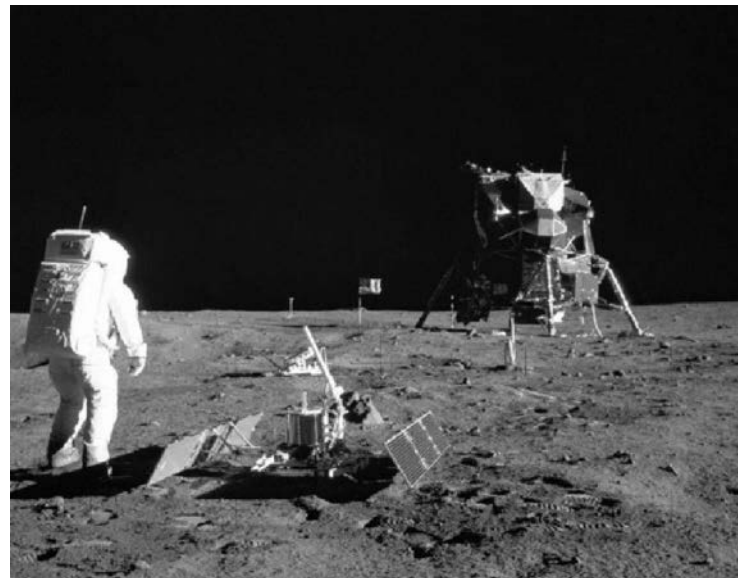
昭和44年5月26日 東名高速道路開通



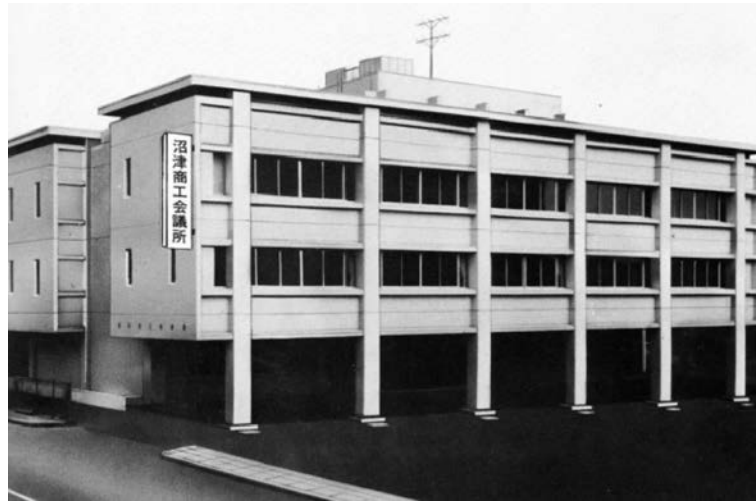
昭和44年7月 駅前地下道開通



昭和44年7月21日 アポロ 11号月面着陸成功



昭和44年9月 沼津商工会議所御幸町新築開所（昭和5年以来の大手町から御幸町移転新築）（平成26年5月まで御幸町、新館は米山町）



昭和44年12月 沼津御用邸（明治26年7月造営）別邸としての使命終わる、沼津市に移管。（昭和45年7月御用邸記念公園オープン）



昭和37年8月 沼津御用邸前浜撮影

昭和45年1月 5 日 駅前通り商店街会、駅前通り商店街振興組合に移行。（初代理事長柴田一男氏）

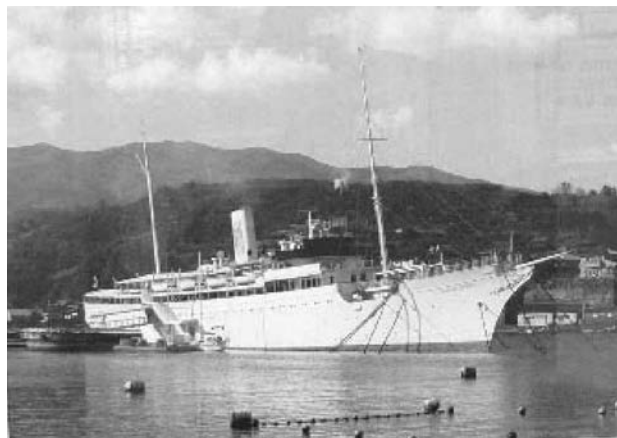
昭和45年1月 沼津鳶職組合 新年梯子乗り披露始まる

昭和45年3月1日 沼朝記事 「上本通りの梅原花店脇の西への道路幅6メートルを12メートルに拡幅整備が立ち退きが進まず実施がおくれている」

昭和45年 スカンジナビア号（ステラ・ポラリス号）沼津市西浦木負767番地沖に投碇昭和45年（1970年）7月25日－フローティング・ホテル・スカンジナビア開業。



《平成17年（2005年）3月31日－フローティングレストラン・スカンジナビア、ハマナ・コスタ営業終了。》《平成18年（2006年）8月31日－沼津ホテル、西熱海ホテル、大仁ホテル、下田プリンスホテル営業終了。スカンジナビア号、スウェーデンの企業『ペトロ・ファースト社』へ売却、修理のため上海に向けて曳航され沼津を出航（9月2日に和歌山県潮岬沖で沈没）。》



『スカンジナビア「思い出ありがとう」市民らが贈る言葉

沼津・故郷へ新たな船出

海に浮かぶホテル、レストランとして三十五年間親しまれた元客船「スカンジナビア」が沼津市内浦湾を離れた三十一日、沿岸には別れを惜しむ多くの市民が詰めかけ、優美な「白い女王」の姿が消えていくのを見守った。

出発に先立ち現地で行われたセレモニーには、一般市民約三百人が参加。地元の小中学生が贈る言葉を述べ、「たくさんの思い出をありがとう。」

これからもみんなに愛される船でいて」などと呼び掛けた。

同船は約十日間の航行で中国・上海へ到着し、船体を修復した後、スウェーデン・ストックホルムへえい航され、海上ホテル、レストランとして再出発する。（静新06年9月1日）』

『「スカンジナビア」・地元住民らが保存する会（沼朝平成17年3月15日号）

伊豆箱根鉄道の観光施設フローティングレストラン・スカンジナビアが、今月三十一日で営業を終了する。現在、売却先を探しているが、地元住民や賛同者が発起人となり、世界的な海事資産として、また、沼津の観光資源としての保存を呼び掛ける「スカンジナビア号を保存する会」を発足。このほど発会式をスカンジナビア号船内ホールで開いた。日本海洋記者クラブ事務局長の三宅啓一さんによる基調講演や、発起人によるパネルディスカッションが開かれ、一般の講者として斎藤衛市長や市議らも参加した。

スカンジナビア号は、五、一〇五ト、全長一二七メートル。一九六九年にコクド(当時国土計画)がスウェーデンの実業家から購入し、翌七〇年、西浦木負にアンカーを降ろして三十四年余りになる。かつては「ステラ・ポラリス」という名称のクルーズ客船として世界の海を駆けめぐった歴史がある。ノルウェーの代表的な海運会社の船として、一九二七年にスウェーデンの造船所で建造され、少人数の旅客を対象に高品質のクルーズを提供する豪華客船として造られたヨット型船体で、マストや高い煙突があるが、当時のクルーズ客船としては初めての試みとなる最新のディーゼルエンジンを搭載。アメリカの富豪層を顧客としたクルージングが行われた。

四〇年代にはドイツ海軍の占有下に置かれ、軍事的な利用で荒れ果てた時期もあったが、終戦後修復されてスウェーデンに戻り、所有者が変わりながらも六九年に運航を休止するまで第一線で活躍した後、日本に売却された。

ステラ・ポラリス号は木負の地でスカンジナビア号に改称。日本で初めての洋上ホテルとして営業を始め、話題を呼んだ。しかし、バブル崩壊後の景気低迷で売り上げが落ち、九九年にホテル部門の営業を休止。レストランと船内見学の営業形態を取ってきたが売り上げが伸びず、年間の維持管理費もかさみ、今年に入って営業休止を発表。売却先を探すことに。

保存会は、三島市のIT関連ソフトメーカー「サンプラス」社長の大田黒敦雄さんと、スカンジナビア東側で喫茶店「海のステージ」を経営する前島希久也さんの出会いにより、準備期間一週間で発足の運びとなった。

大田黒さんは九六年以来、スカンジナビア号にライブカメラを設置して富士山の画像をリアルタイムで世界に発信するホームページ「ずっと富士山」を主宰。五百六十万件のアクセス数を誇る人気サイトに成長し、高校の教科書でも紹介されている。大田黒さんは、スカンジナビアの営業終了に伴いカメラの移設を検討。ホームページで告知したところ、営業終了を惜しむ声が多数聞かれ、面識のなかった前島さんからは、「スカンジナビア号を保存する活動をしたい」とのメールが寄せられた。

早速、前島さんに会いに行った大田黒さんは互いの意思を確認。知人らに呼び掛け、「スカンジナビアの営業終了前に、船内で発会式を開き活動を開始しよう」と、一週間後の発会式の開催が決まった。

発会式では、代表に就任した大田黒さんが、「スカンジナビア号に富士山ライブカメラを設置して、毎日百力国から約四千人がアクセスしている。スカンジナビア号から眺める富士山が富士山の定番だと考えている人も多い。歴史的な価値も高く、すごい船だと思う。

何とかこの場所に残すことができないか、皆さんの知恵を借りて保存していきたい」と話した。

基調講演をした三宅さんは、日本海事広報協会が発行する海と船の雑誌「ラメール」の編集にも携わり、海洋レジャーや船舶関係を専門とするジャーナリスト。スカンジナビアの営業終了の話を聞き、「ステラ・ボラリスは世界的な海事資産で文化財。国際的な視野で完全保存すべき」と立ち上がり、独自に保存を呼び掛ける活動を開始。石川嘉延県知事や斎藤市長にも手紙を書いている。千葉県に住むが、沼津で保存会が発足することを聞いて自費で駆け付けた。

三宅さんは、ステラ・ボラリス号が沼津に来るまでの歴史を自作の模型を見せながら詳細に説明し、「船を、より購入金額の高い企業に売却するのが経済原則だが、経済原則に反しても、文化財という立場から保存方法の質で売却先を決めるべき」と訴えた。

船の保存方法には、スカンジナビア号のような浮体施設としての係留保存、簡易ドックや陸上への上架保存、船体の陸上への埋め込み保存、吃水線上(水から上に出た部分)の船体のみの保存などがあることを紹介。

三宅さんは、「係留保存には多額の維持管理費が掛かるため、売却先では吃水線上で切断され、陸上の施設として利用される可能性が高い。船は大気と水の境界面上に、水中にある船体の浮力によって存在するもの。歴史的資産、文化財を保存するという視点に立つと、目に見えない部分は切り捨てるという手法を取ってはならない」と訴えた。また、ミカン畑に囲まれ、富士山を望む現在地が景観的に素晴らしいことを指摘する一方で、「切り刻んで保存されるくらいなら、造船したスウェーデンに買い取ってもらうか、いっそのこと解体してしまった方がいい」と話した。引き続きパネルディスカッションが開かれ、発起人の五人が順にスカンジナビア号に寄せる思いを語った。

その中で前島さんは、「西浦の自然環境とスカンジナビア号の美しさを楽しみにして毎年訪れている人もいる」と話し、NPO法人ステップ熱海のレーダー春江理事長は、「素敵なキャビンで食事をしてテーブルマナーを学び、世界と日本文化の橋渡しの場となっていた。市民が立ち上がって声を上げれば、行政も動いてくれるのではないかと訴えた。

二十九年間にわたりスカンジナビアで働き、支配人を務めた安楽博忠さんは、ステラ・ボラリス号の回航員として四十五日間を掛けて日本に持ち帰った思い出から話し、「スカンジナビアにはドイツ、ノルウェー、スウェーデンから、ステラ・ボラリス号の乗組員やその家族が訪れ、思い出話をしたり、船のその後を心配して毎年手紙を送ってくる人もいた。ノルウェーやスウェーデンでは、今でもステラ・ボラリス号の記憶が強く残っている」と話した。

また、ヨットマンの溜光男さんは、「スカンジナビア号が固定されていると勘違いしている人も多いが、浮いている。船の十七メートル下に海底がある」などと話した。

質疑応答では、参加した斎藤市長に対して、行政の保存に向けた取り組みに期待する声から相次ぎ、これを受けて斎藤市長がコメントを寄せた。

「地元の方々を含めて熱い思いが感じられた。スカンジナビア号の良さをもっと多くの人に分かるように伝える工夫も必要だと思う。地元でこれだけやっているという活動があれば、オーナーへの働き掛けにもなる。この地区の活性化の一つの種になるのでは。がんばって議論を発展させてほしい」と話した。

保存会では、今後、署名活動を展開して理解を求めていくとともに、会議を開いて今後の活動を検討していくという。

なお、スカンジナビアでは、十九日から三十一日まで、三十四年間の感謝を込めて入船見学科を無料にする。二十六、二十七日はレストランがかしきり。の為見学のみ。

昭和45年 上本通シルバーアーケード完成(平成18年上本南部アーケード撤去・歩道整備)(平成25年12月6日上本中部・北部アーケード撤去並びにLED街灯32基設置整備)



昭和45年5月 沼津夏まつり開催日 7月最終土・日に決まる

昭和45年11月 沼津商業青年部連絡協議会設立

昭和45年12月1日 ニチイ開店(平成7年2月閉店)



昭和46年6月 わたやす沼津駅前店開店

(昭和49年3月30日 大規模小売店表示金井完太郎)



昭和46年11月 西武沼津店新館オープン (平成25年1月 31 日閉店)

昭和47年7月 沼津夏まつり主催に会議所と商連が加わる

昭和47年11月 ワシントン靴店本店ビル竣工

昭和48年4月 東海大学沼津校舎開設



昭和48年6月 シルバーアーケード建築施設 (上本通振興組合理事長河野武一郎) 届ける



昭和48年7月 石橋製糸株式会社廃止：イシバシショッピング問題始まる

昭和48年7月 沼津ステーションビル進出

昭和49年3月1日 大規模小売店舗法施行

昭和49年3月 ユニー沼津店大手町移転開店(昭和51年10月閉店)

昭和49年(1974年)3月29日-西伊豆航路に初代「こぼるとあろー」就航(130トン、定員130人、平均速度24ノットの高速艇、それまでの龍宮丸13ノットの倍の速度、駿河湾カーフェリー就航に対抗して)

(2003年(平成15年)8月31日-西伊豆航路(沼津港-松崎港)廃止。)



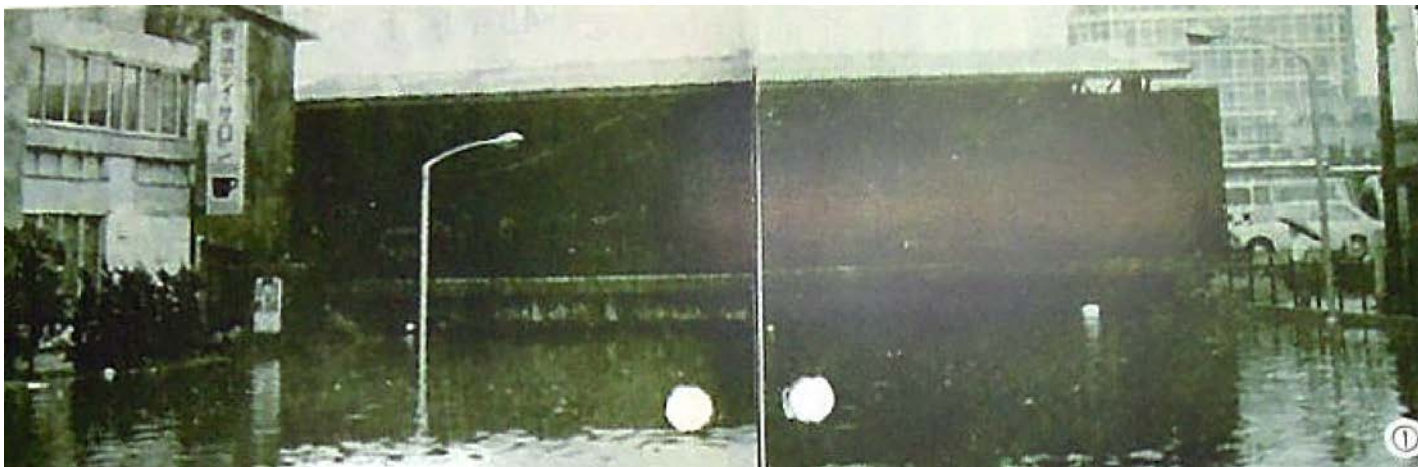


『地元、社員ら「寂しい」』

伊豆の松崎港と沼津港を約八十分で結ぶ伊豆箱根鉄道の西伊豆航路が三十一日夕、半世紀の歴史に幕を下ろし、「こぼるとあろー」の愛称で親しまれた高速船も自慢の景勝豊かな航路から姿を消す。存続の願いがかなわなかった地元自治体、観光業界はもちろん、最終便出港を目前にして、長年運航に携わってきた社員の表情にも寂しさ、無念さがのぞく。唯一の海路を失う賀茂郡松崎、西伊豆町は「カーフェリーで海上ルートの復活を」と決意を新たにす。

各港最終便は沼津午後三時十五分、松崎同三時三十分に出港予定。「やむを得ない決断だが、さよならクルーズ企画の好反響を見ていると、残念な思い。長年のご愛顧に感謝しています」と青木学同社船舶部長。約十六年間、松崎港で乗降客を迎えた山崎寛同社松崎船舶営業所長（60）は「浮かぶのは寂しいという言葉だけ。お客様から喜びの言葉や数多くの感謝の手紙をいただいたことを思い出します」。山崎所長は残務を九月中旬までに整理し、航路の最後を見届けて定年退職する。戸田港、土肥港とは異なり、完全に海上誘客経路を失う松崎、西伊豆の観光関係者からは「案内図に航路がなくなる心理的ダメージは大きい」と声が上がる。深沢進松崎町長は「土肥-清水間のカーフェリー就航で県中西部、中京、山梨方面からの流入が増えた。観光振興にはカーフェリーが欠かせない」と指摘。「建設中の松崎新港湾の早期完成を強力に推進し、清水港、御前崎港とつなげたい。災害対応にも航路は必要」と意気込む。窪田一郎西伊豆町長も「合併を目指す松崎町、賀茂村と一致協力して取り組みたい」と述べる。同航路は昭和二十九年に伊豆箱根鉄道が営業を開始、四十九年から高速船「こぼるとあろー」が就航し、平成三年には年間利用者二十四万人を数えたが、マイカー客の割合増加や観光不況で利用者が減少し、同社の不採算部門となっていた。（8月31日静岡新聞朝刊）』

昭和49年7月 七夕豪雨被害



↑ 中央ガード大洪水で通行止め

昭和49年8月31日 沼津港線(蛇松線)廃止



昭和49年 大規模小売店法(大店法)施行(平成12年大規模小売店舗立地法「大店立地法」)

昭和49年 沼津駅前商店街アーケード完成（西側）



昭和49年 駅前名店街アーケード完成

昭和49年 駅前日通跡地払い下げ運動

昭和50年「あきんど」創刊

(3)

あきんど

平成18年5月29日

目的

沼津市商店街連盟は、商店街の連絡強化により、その振興発展をはかるをもって目的とする。

あきんど

特別号

特別増刊号
2,000部発行

発行編集
沼津市商店街連盟
沼津市御幸町14-5
沼津商工会議所内
tel.055-901-1111

沼津駅南北自由
通路の実現を熱望

沼津市商店街連盟
会長 井川 勝年

沼津駅周辺総合開発事業が目に
見えて動きました。これにより
中心市街地の活性化に向け、ま
た東部の拠点都市としての沼津は
大きく前進している感があります。
しかしながら、東部の拠点であ
るべく沼津の中心市街地の相対
は、沼津駅南北を行き来するの
にわざわざ過河をしなければな
りません。沼津駅を南北に結ぶ
手段は、西に大きく迂回し、北
まなせ道路を利用するか、若し
は人海をひいて東の駅内を
利用するか、又は南北道路バスを利
用する以外に方法はなく、長年改
善が求められているのが現状であ
ります。

沼津駅周辺総合開発事業が実現
するまでの長い期間、販売実績う
れゆく中心市街地の繁栄による税
収増が市に反映され、その利益
が市に還元されることも、投資
助成の機運を醸成するに必要と
なれば、南北自由通路の建設は必要不可欠
であると考えられます。

「あきんど」は、このように、
沼津駅南北自由
通路の早期実現を望む
市民の声を代弁する
役割を担っています。

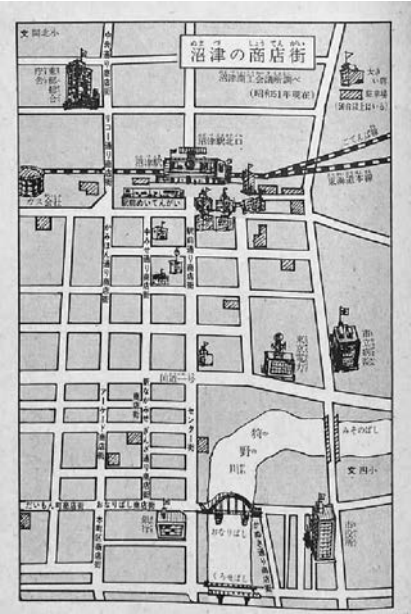
沼津駅南北自由
通路設置を熱望

本年四月十五日には、駅北にR・Vがオーソライズし中心市街
地への集客に貢献している。また、再開発ビルは、工事が順調
に進み着工が見え、平成二十年春の完成に中心市街
地の活性化やまわりのくが期待される。

少子高齢化や政府の不利よりも進展に基き、快進
走を続ける沼津市商店街連盟の利便性の向上を期し、都市の魅力
度をアップすることが重要で、そこで鉄道駅が完成するま
での間、暫定的に沼津駅南北自由通路の建設を急務である
と、寺田、各商店、金代表者の沼津駅南北自由通路設置に
する思いを集約し掲載いたします。

鉄道高架化完成まで十五年は長すぎる――

沼津駅南北自由
通路設置を熱望



昭和50年8月26日 井草呉服店新仲見世開店（井草通之社長:5階建築）

昭和50年11月 石橋プラザ反対運動

「イシバシプラザ・イトーヨーカドー出店問題

昭和四八年の石油危機によって低成長期に移行し経営環境が激変したことを背景として全国的に大型店舗の出店には中小商業者による抵抗が強まるようになる。昭和四九年には、百貨店法の適用を受けない量販店の増加により既存百貨店と中小商業者の双方からの批判が高まった結果、百貨店法に代わって「大規模小売店舗法」が施行され、百貨店・量販店の大型店の出店にあたって地域との調整がルール化されることとなった。昭和五三年これが改正強化され、さらに昭和五六年以降は「出店凍結」と厳しい出店規制が行なわれることになる。このような状況の中で、沼津においてこの時期大きな問題となったのがイシバシプラザの建設問題であった。

沼津商工会議所の記録によれば、イシバシプラザ建設の発端は、昭和四八年九月にリコー通り商店街を中心とする駅北地区商店街が周辺地区の自治会長と連名で、石橋株式会社に対して、沼津市高島本町の遊休地(石橋製糸所跡地)に「商業ビル」を建設するように申請したことであった。これを受けて、同年一二月に石橋株式会社は、市の企業等進出対策委員会に申請書を提出し説明を行なった。この時点の構想は、百貨店一店と量販店一店を核店舗とするものであった。翌年一〇月頃まで駅北地区商店街・自治会に対して説明会が行なわれたが、第一次石油危機の影響もあり、一時話は下火となった。

昭和五〇年の夏、百貨店出店を見送り量販店のイトーヨーカ堂を核とするショッピングセンターを建設する計画が持ち上がった。これに対して駅北地区商店街は、早期実現を求める「要請書」を石橋株式会社に提出し活発な推進運動を開始した。これは大規模商業施設が駅南地区に集中したことにより駅北地区と格差が拡大していたことから、この施設の建設による駅北地区への集客効果を期待してのものであった。

しかしながら、石橋製糸所跡地にショッピングタウンを建設することは必ずしも駅北住民の総意ではなく、騒音、排気ガスなどの車公害やビル風などの生活環境破壊を懸念して住民組織による反対運動も一方で起こっている。このような住民による反対のほかに、駅南商店街をはじめ既存の商店街の多くは「沼津市の場合、現状以上の商店は必要ない。これ以上大型店が進出すれば過当競争がいつそう激化正常な商店経営ができなくなり、倒産するものが続出する」との認識から新規の大型店の出店に対して反対する空気が強く、商店街連盟も意見統一に苦慮する状況となり、会長（大橋光雄）辞任騒動にまで発展している。その後、商工会議所は商店街連盟に石橋株式会社とイトーヨーカ堂との話し合いを進めるように指導し、商店街連盟は昭和五一年三月から七月にかけて一〇数回にわたり両社と話し合いを行なった。その結果、十一項目にわたる「申入」がなされ、その大部分について合意を得たことをうけて、同年九月九日第一回の商業活動調整協議会(商調協)が開催されるに至った。ところが、商店街連盟による十一項目を不服とする商業者は、「イトーヨーカ堂進出反対期成同盟」を結成して市外からの進出であるイトーヨーカ堂に的を絞って「進出絶対反対」の決議を行なうなど反対運動を行なった。反対の中核は駅南の仲見世商店街であった。「反対期成同盟」はその後運動を継続したが、昭和五十二年には「進出絶対反対」から「条件付き反対」に方針を切り替えて開業後の増床反対の運動を展開した。

このような経緯を経て「イシバシプラザ」として開業したのは、昭和五十三年七月十三日であり、駅北商店街の要望書提出から約五年後のことであった。

（沼津市史「現代」）

昭和50年11月 商店街連盟会長辞意（大橋光雄会長）

昭和51年2月 緑屋閉店（元いさみや借り上げ：丸井との競合に負け）

昭和51年5月 ヤオハン沼津店トーアボール（東京麻糸南工場）跡に進出（平成9年9月ヤオハンジャパン倒産）昭和51年5月 富士通（株）沼津工場進出



昭和51年9月 イトーヨーカ堂進出反対デモ行進（事務局：沼津仲見世商店街振興組合）

昭和51年10月 ユニーさが美閉店

昭和51年12月 駅北らくらく酒場大火災、焼死者15名



昭和52年7月 28日 スーパーシズオカヤ・萩原商事アーケード店開店（長谷川家具店跡・元富士屋デパート）

昭和52年10月 大東ショッピングセンター（ユニー）進出反対決起大会

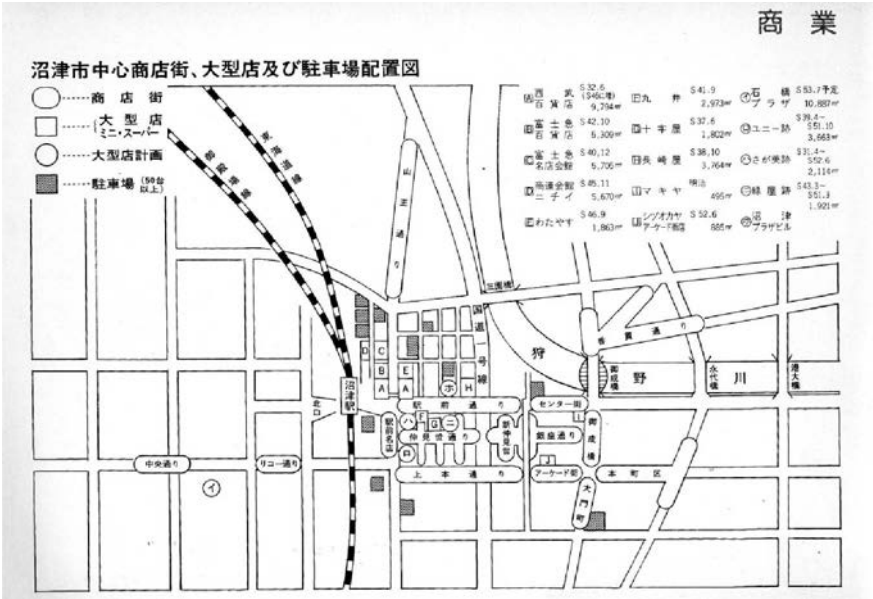
昭和53年3月 中央ガード歩道橋開通

昭和53年4月 マクノナルドハンバガー仲見世オープン（平成23年4月 閉店）昭和53年 上本通シルバーアーケード横断歩道上屋根を付ける

昭和53年 この時代の沼津大型店会・駐車場位置・商店街名



沼津市大型店会



昭和53年5月 一本残った名松「蛇松」が枯れてしまった



昭和53年7月 13日 イシバシプラザ・ヨーカドー進出開店



昭和54年2月 第2次小田急沼津駅乗り入れ促進運動始まる

昭和54年5月31日 セブンイレブン沼津一号店開店(まるよし酒店)(6月千本東店・白銀店開店)

昭和55年 小田急乗り入れアンケート結果報告

昭和56年2月 第7代会頭宇野三郎就任

昭和56年 商工会議所・小田急沼津駅乗り入れ対策委員会設置

昭和56年4月 沼津ステーションビル増改築「アントレNUMAZU」オープン

昭和56年7月 マルトモ仲見世店 本社ビル地下1階の食品売場を沼津市大手町5丁目8番21号に新築移転し、マルトモ仲見世店(現在の本店)として新規OPEN。

昭和56年9月 小田急沼津駅乗り入れ対策特別委員会設置

昭和57年4月 旧国道地下道「味の近道商店街」閉鎖

昭和57年4月16日 上本通り自治会総会にて、前年度の住居表示改正反対を撤回し、上本通り町から大手町への住居表示改正に協力を決定。同年11月までに改正が行われた。

昭和57年5月30日 フォーラム壹番館オープン(春日商事株式会社)

昭和57年6月 ケンターキーフライドチキン仲見世店オープン（平成23年5月閉店）

昭和57年6月3日 仲見世コミナード完成（コミニティー道路）



昭和57年7月 1 日 沼津市民文化センターオープン（八幡町市公会堂は57年6月末で閉館）



昭和57年9月 22 日午前10時 仲見世第二次アーケード（パルナード）落成式（総工費4億円、高さ6～8.87幅6.6長さ256m）



昭和58年3月 井上靖に名誉市民称号贈呈

昭和58年10月1日 日専連沼津専門店会（昭和26年結成）と沼津サービス店会（昭和27年結成）販売業務統合

昭和59年2月 轍道ガード開通



㊦ 轍道ガード完成

昭和59年 仲見世一番街誕生

昭和59年4月27日 商業青年部総会59年度役員選考 会長長谷川徹、副会長露木博行・横山勝・金刺健四郎・藤原規夫・近藤定義決定

昭和60年3月 創立60周年記念大会「私の経営理念」講師：堤清二（西武流通グループ代表）

昭和60年夏 第1回海人祭開催



昭和61年1月「21世紀駅周辺再開発特別委員会」

昭和62年2月「ビビットヌマヅライフ21構想」を策定



昭和62年3月 片浜駅新設（昭和24年2月の沼津商工会議所第一回役員会片浜駅設置要望議案承認から 38年後の実現であった）



昭和62年4月 1 日 国鉄6社分割民営化

昭和62年11月24日 んましんストリートギャラリー第1回展示「第一回著名作家ブロンズ展:佐藤忠良・船越保武・柳原義達・木内克・淀井敏夫計7点」

昭和63年4月1日 沼津機関区モニュメント設置(昭和61年12月1日沼津機関区100年記念日) (沼津駅南口母子像横)



昭和63年6月6日 沼津大手町振興組合アーケード完成（第二次）



昭和63年7月 沼津市立病院東椎路に新築移転

昭和63年10月 桃中軒会館「エイブルコア」に名称変更

昭和64年1月7日 昭和天皇崩御、平成と改元

平成3年3月16日 「あさぎり号」沼津駅乗り入れ運行開始



沼津～新宿間直通電車「あさぎり」が開通



「あさぎり号出発」 沼津・新宿直通電車 運行開始で記念式典



沼津・新宿間直通電車が十六日、地域活性化の期待を乗せて走り出した。JR 東海と小田急の相互乗り入れによる新型特急「あさぎり号」。沼津駅では出発式が行われ、大きな拍手で待望の「一番電車」を送り出した。

出発式は午前七時四十分から、沼津駅3番線ホームで行われた。参加者は沿線市町の首長、商工界代表ら五十人ほど。須田寛 JR東海社長、野上健一中部運輸局鉄道部長、桜田光雄沼津市長があいさつし、直通電車実現の意義などを強調した。

続いて運転士と車掌、乗客代表に花束が贈られ、須田社長ら六人がテープカット。くす玉が割られると、ほぼ満席の一番電車「あさぎり2号」は定刻の同八時、参加者や大勢の鉄道ファンの拍手の中、ゆっくりと走り出した。

この後、駅前広場で記念式典が行われたほか、新宿からの一番電車「あさぎり1号」の歓迎式、新路線運行をスタートさせたバスの出発式とイベントが続いた。

「あさぎり号」の運行は一日上下四本ずつ。JR東海と小田急が半分ずつ受け持つ。沼津・新宿の所要時間は最短で一時間五十八分。二階建て二両を含む七両編成で、さん新な外観とともにゴージャスな車内も売り物だ。

(静新平成3年3月16日)

(平成24年3月「あさぎり号」沼津駅乗り入れ廃止：『 特急あさぎりの運転区間を短縮

JR東海は2012年3月17日のダイヤ改正に伴い、御殿場線の特急あさぎりの運転区間を小田急新宿ー沼津駅間から小田急新宿ー御殿場駅間に短縮。平日の運行本数を4往復から3往復に減らす。土日祝日は4往復のまま。同社が16日発表した。JR東海静岡支社は御殿場ー沼津駅間の利用者が少ないことや、平日と土日祝日の利用者数に差があることを理由に挙げた。(静新平成23年12月17日朝刊)』



↑ (2009年12月28日撮影沼津駅ホーム)

平成3年4月 東海大学開発工学部開校



終り

【西武沼津店：1957年開業。開業時のキャッチコピーは「沼津で東京のお買い物を」であった。西武グループの伊豆箱根鉄道が家主の「沼津ビル」を一棟借りで運営している。1971年に新館を増築し、シブヤ西武に似た外見となっている。建物老朽化の面から、地元より再開発ビル（イーラde）への核テナントとしての入居を切望されたが、2003年に撤回の上現在に至る。近接して富士急百貨店（高島屋ハイランドグループに属するものの、ファッションビルに近い構成）があるが、どちらも2000年代よりレストランを設置していない。2013年1月末日で閉鎖する事が発表された。売場面積19,340㎡】